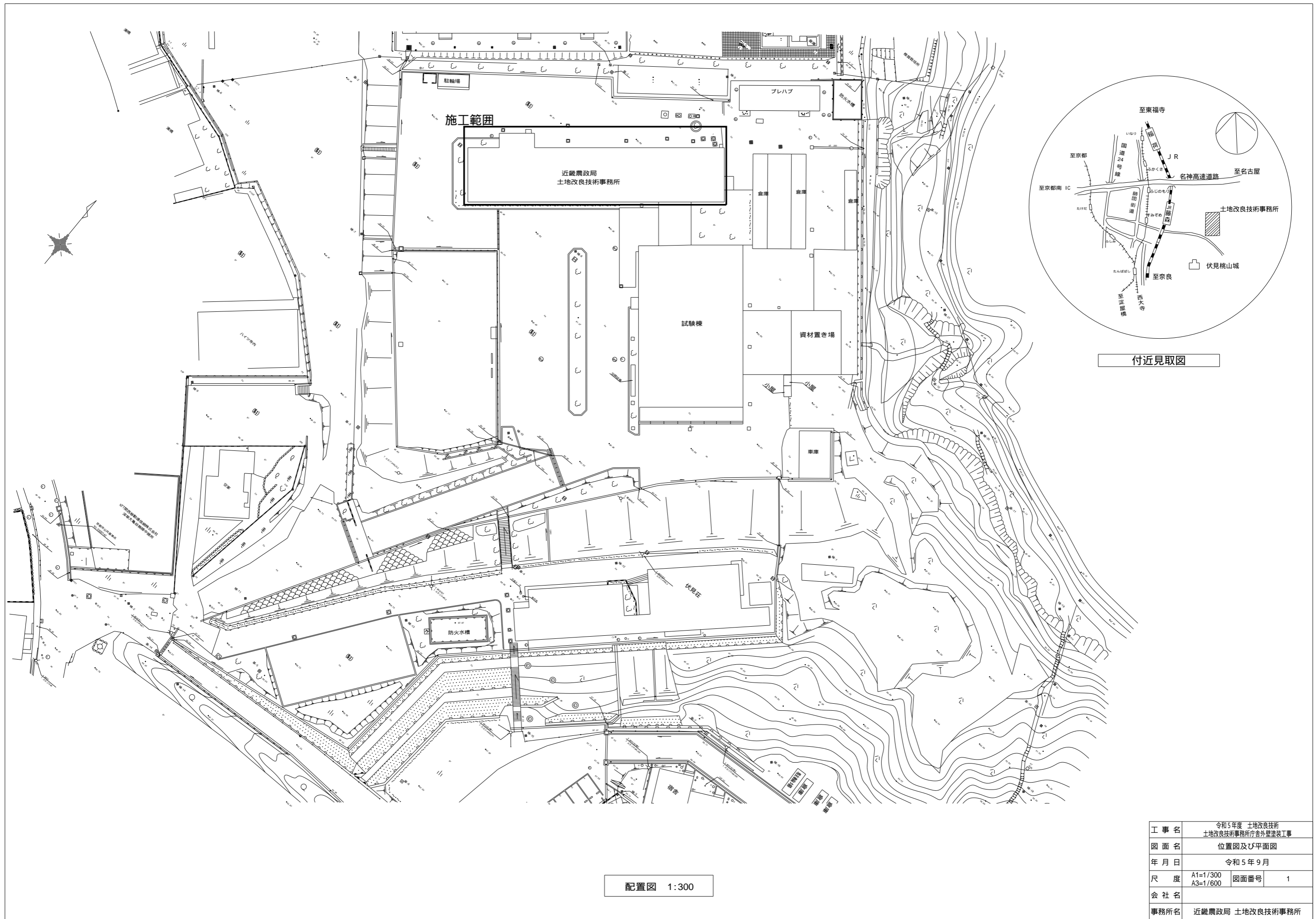


事業名	土地改良技術		
工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
契約区分	当初	図面枚数	20
図面番号	図面名称	枚数	備考
1	位置図	1	
A-01	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(1)	1	
A-02	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(2)	1	
A-03	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(3)	1	
A-04	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(4)	1	
A-05	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(5)	1	
A-06	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(6)	1	
A-07	庁舎外壁改修 1階平面図	1	
A-08	庁舎外壁改修 2階平面図	1	
A-09	庁舎外壁改修 3階、屋根平面図	1	
A-10	庁舎外壁改修 東・南側立面図	1	
A-11	庁舎外壁改修 西・北側立面図	1	
A-12	庁舎外壁改修 断面図	1	
A-13	庁舎外壁改修 断面詳細図	1	
A-14	庁舎外壁改修 建具表(1)	1	
A-15	庁舎外壁改修 建具表(2)	1	
A-16	庁舎外壁改修 損傷図(1)	1	
A-17	庁舎外壁改修 損傷図(2)	1	
A-18	庁舎外壁改修 損傷図(3)	1	
A-19	壁改修要領図	1	
計		20	



配置図 1:300

付近見取図

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	位置図及び平面図		
年月日	令和5年9月		
尺度	A1=1/300	図面番号	1
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事
令和 5 年 9 月 (全 6 枚)

仕様書

I 工事概要

1. 工事場所: 京都市伏見区深草大亀谷大山町官有地

2. 敷地面積: _____

3. 工事種目: 1) 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事

4. 工事内容

- 1) 建具周囲コーキング打替え
- 2) 外壁クラック補修及び塗装改修
- 3) 外部鋼製建具の塗装改修
- 4) 耐震補強プレースの塗装改修

5. 工事範囲
※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

工事種目	工事種目	
	事務所棟 改修工事	試験室棟 改修工事
2 仮設工事	○	施工対象外
3 防水改修工事	○	施工対象外
4 外壁改修工事 コンクリート打直し仕上げ外壁 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁	○	施工対象外
5 建具改修工事	○	施工対象外
6 内装改修工事		
7 塗装改修工事	○	施工対象外
8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事 耐震改修工事		
9 環境配慮改修工事		

II 建築改修工事仕様

1. 共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「改修標準仕様」という。）により、また、改修標準仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下「標準仕様」という。）による。

2. 特記仕様
（1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と◎印の付いた場合は、ともに適用する。
（3）特記事項に記載の[]内表示番号は、改修標準仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（5）特記事項に記載の(別2-)は、標準仕様の「別2 ポルト間隔等及び溶接継手の間先形状」の当該項目を示す。
（6）☒印は「国等による環境物品等の調達に関する法律（グリーン購入法）」の特記調達項目を示す。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 適用基準等	・建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 令和4年版） ・工事写真の撮り方（改訂第2版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修） ・建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版）
	② 工事実績情報の登録	※適用する [1.1.4]
	③ 品質計画等	・建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次に由る。 [1.2.2] ※風速 $V_0 = () \text{ m/s}$ (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 ・I ・II ・III ・IV ・積雪区分 平12建告第1455号 別表()
	4 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ・要 ・不要 [1.3.3]
	5 施工条件	下記以外は現場説明書による。 [1.3.5] ・工事用車両の駐車場 ※図示 ・ ・資機材置場 ※図示 ・ ・建設発生土仮置場 ※図示 ・ ・ ※図示 ・
	6 発生材の処理等	・発注者に引渡しを要するもの (・金属類) [1.3.8] ・特別管理産業廃棄物 (・廃石綿 ・PCB含有物) [1.3.8] ・現場において再利用を図るもの () [1.3.8] ・再資源化を図るもの () [1.3.8] ・PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定：現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数 計()箇所 採取箇所 ※図示 ・ ・第二次判定：専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析箇所 計()箇所 ・除去処理工事 除去範囲 ※図示 ・
⑦ 環境への配慮	化学物質を放散させる建築材料等 [1.4.1] 本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。 (1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (5) (1)、(3)及び(4)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に定める「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。	
	ホルムアルデヒド放散量	該当する材料
	規制対象外	① JIS及びJISのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJIS規格品 a. 接着剤等不使用 b. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
⑧ 材料の品質等	本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASのマーク表示のない材料及びその製造者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。 (1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3) 安定的な供給が可能であること (4) 法令等で定める許可、認可、認定、免許等を取得していること (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関(社)公共建築協会等)が発行する「建築材料・設備材料等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。	
	改修標準仕様及び標準仕様に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。	
⑩ 施工数量調査	調査範囲及び調査方法 ※図示 [1.6.2]	
	既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示 [1.6.3]	

11 技能士	[1.6.2]		
12 化学物質の濃度測定	[1.6.9]		
③ 完成時の提出図書	[1.9.1～3] [表1.9.1]		
14 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。		
⑤ 設計GL	※図示		
② 仮設工事	① 足場その他 [2.2.1] 内部足場 種別 ※きやつ、足場板等 ・単管棚足場 [2.2.1] 外部足場 種別 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 [2.2.1] [表2.2.1] 防護シート ※設置する ・設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1] [表2.2.1]		
	② 既存部分の養生 [2.3.1] 既存部分の養生 ※ビニールシート等 ・ 既存家具等の養生 ※ビニールシート等 ・ 固定家具等の移動 ※行わない ・行う(図示)		
3 仮設間仕切り	仮設間仕切り等の種別 [2.3.2] [表2.3.1]		
4 監督職員事務所	※図示 [2.4.1]		
⑤ 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(・有償 ・無償)		
⑥ 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(※有償 ・無償)		
③ 防水改修工事	1 既存防水層の処理 [3.2.3] 既存保護層(平場)の撤去 ・行う(範囲 ・図示) [3.2.3] 既存防水層(平場)の撤去 ・行う(範囲 ・図示 ・行わない) [3.2.4] 立上り部の防水層撤去 [表3.1.1] ・行う(・POS(機械) ・POS I(機械) ・MAS ・MAS I ・SAS(機械) ・SAS I(機械))		
	2 既存下地の補修 [3.2.2] アスファルト補修の材料 ※JIS K 2207による3種 ・ [3.2.2] 既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示 [3.2.6]		
	3 アスファルト防水 [3.3.2.3] [表3.1.1] [表3.3.3～10]		
保護防水	防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所
	露出防水	屋内防水	
10 アルミニウム製笠木	11 折板葺		
	アスファルトの種類 ※3種 ・4種 [3.2.2] [3.3.2] M30、POD、POD I、M30 I及びM4D I工法の脱気装置 ※図示 ・設けない [3.3.3] 断熱工法の断熱材 ※押出法ポリスチレンフォーム3種2スキン層付き ☒ 厚さ(mm) ※25 ・ 厚さ(mm) ・		

4 改質アスファルトシート防水 [3.4.2.3] [表3.1.1] [表3.4.1～3]

防水改修工法の種類	新規防水層の種類	厚さ(mm)	施工箇所
・M4S工法	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2		
・M3AS工法	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J2		
・POAS工法	・機械的固定工法		
・M3AS I工法	・AS I-T1 ・AS I-J1		
・M4S I工法			
・POAS I工法			

M3AS I、M4S I及びPOAS I工法の防湿層 ・設ける ・設けない [表3.4.3]
M3AS、POAS、M3AS I、M4S I及びPOAS Iの脱気装置 [3.4.3]
※設けない ・設ける

5 合成高分子系ルーフィングシート防水 [3.5.2.3] [表3.1.1] [表3.5.1]

防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・POS工法	・S-F1 ・S-F2		・シルバー	※非歩行
・S4S工法	・S-M1 ・S-M2 ・S-M3		・カラー	
・POS I工法	・S I-F1 ・S I-F2			
・S4S I工法	・S I-M1 ・S I-M2			
・S3S工法	・S-F1 ・S-F2			
・S3S I工法	・S I-F1 ・S I-F2			
・M4S工法	・S-M1 ・S-M2 ・S-M3			
・M4S I工法	・S I-M1 ・S I-M2 ・S I-M3			

脱気装置 ・設ける ・設けない [3.5.3]
目地処理 PGコンクリートの場合() [3.5.4]

6 塗膜防水 [3.6.2.3] [表3.1.1] [表3.6.1.2]

防水改修工法の種類	新規防水層の種類	施工箇所	仕上げ塗料塗り
・POX工法	※X-1 ・X-2		・シルバー
・LAX工法	※X-1 ※X-2		・カラー
・PIY工法	※Y-2		
・PZY工法	※Y-2		

脱気装置 ※設けない ・設ける [3.6.3]

7 脱気装置 [3.3.3] [3.4.3] [3.5.3] [3.6.3]

種類	材質	設置数量
・平場部脱気型	・ポリエチレン樹脂 ・ステンレス鋼 ・錆鉄	() ² ㎡当たり1箇所
・立上り部脱気型	・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス鋼 ・銅	() ² ㎡当たり1箇所

⑥ シーリング [3.1.4] [表3.1.2]
シーリング改修工法の種類
・シーリング充填工法 ○シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法

シーリング材の種類 ※下表以外は、改修標準仕様3.7.1による [3.7.2] [表3.7.1]

種類	材質	設置数量			
・ブリッジ工法	ポンドブローカー張り ・適用する エッジング材張り ・適用する	() [3.7.7]			
接着性試験	※簡易接着性試験 ・引張接着性試験(部位:)	() [3.7.8]			
9 とい	といの材質 ※配管用鋼管 ・硬質塩化ビニル管(・VP ・RF-VP ☒) ・ 鋼管製といの防露巻き [3.8.2.3] [表3.8.4.5] ※行う(施工箇所 ※改修標準仕様3.8.5による) 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 といの排除口 ※あり(図示) ・なし たてどい受金物の取付け ※図示 ・標準仕13.5.3 (d) (2)による [3.8.3]				
ルーフトレン	種別	施工箇所			
	・ろく屋根用(・たて形 ・横形)				
	・バルコニー中継用				
	・バルコニー用				
10 アルミニウム製笠木	[3.9.2] [表3.9.1]				
11 折板葺	種別	表面処理	固定間隔	備考	
	・250形 1.6	※A-1又は	※固定方法及び		
・300形 1.8	B-1種	間隔は図示による。			
・350形 2.0	B-2種				
・100形	()				
・					
	板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 [3.9.3] (13.3.2.3) (表13.2.1)				
形式	形状(mm)	材料(規格等)	軒先面戸板	断熱材	耐火性能
※重ね形	山高()	※塗装溶剤55%アル	※あり	※あり	※30分
・はげ納形	山ピッチ	ミニウム-亜鉛合金	・なし	種別()	・なし
・かん合形	()	めっき鋼板及び銅帯		厚さ()mm	
	板厚	(GGLQR-20-		防火性能()h	
	※0.6・0.8	AZ150)		・なし	
工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事				
図面名	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(1)				
年月日	令和 5年 9月				
尺度	-	図面番号	A-01		
会社名					
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所				

④ 外壁改修工事 共通事項	① 施工数量調査	調査範囲 ※外壁改修範囲 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 (1) ひび割れの幅及び長さを壁面に表示し、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 (2) モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部分を表面に表示し、欠損部の形状寸法等を調査する。 (3) コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 (4) 塗り仕上げについては、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示し、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 調査報告書の部数 ※2部	4-1 ① ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法 [4.1.4] [4.2.5] 注入工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (m ³ /m) 備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0未満 ※200～300 ※130 ・ ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3未満 ※50～100 ※40 ・ 0.3以上～0.5未満 ※100～200 ※70 ・ ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上～1.0未満 ※150～250 ※130 ・ 注入工法 ・ ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形) [4.2.4] 検査 (コア抜き) ※行わない [4.3.4] ・行う (採取部の補修方法:)	4-3 ② 既存タイル張りの撤去 ・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで ・タイルのみ 改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面 (・コンクリート面 ・モルタル面) ※樹脂注入工法 [4.1.4] [4.3.4] [4.5.5] 注入工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (m ³ /m) 備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0未満 ※200～300 ※130 ・ ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3未満 ※50～100 ※40 ・ 0.3以上～0.5未満 ※100～200 ※70 ・ ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上～1.0未満 ※150～250 ※130 ・ 注入工法 ・ ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形) [4.2.2] 検査 (コア抜き) ※行わない [4.3.4] ・行う (採取部の補修方法:)	4-4 ③ 既存塗膜等の除去及び下地処理 [4.5.4] [表4.6.4～7] 工法 処理範囲 下地面の補修 ※サンダー工法 ※既存仕上面全体 ①ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・浮き部改修工法 50MPa程度 ・欠損部改修工法 ・塗膜はく離工法 ※既存仕上面全体 ②水洗工法 ※既存仕上面全体 ※15MPa程度 塗膜はく離剤の種類 [4.2.2] 材料 ※下地調整塗材 [4.5.2] [4.5.5] ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用 仕上塗材の種類、仕上げの形状等 [4.1.5] [4.5.2] [表4.5.1] 種類 呼び名 仕上げの形状等 ・薄付け仕上塗材 ・外装薄塗材S ・可とう形外装薄塗材S ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・防水形外装薄塗材E ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・外装薄塗材S ・砂壁状 ・複層仕上塗材 ・複層塗材CE ・複層塗材E ・複層塗材RE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材RS ・砂ず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様 耐熱性 ※耐熱形3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・可とう形複層塗材E ・防水形複層塗材RE ・防水形複層塗材RS ・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE ・砂ず肌状 ・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 防火材料の指定 [4.2.2] ※屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする。
	2 改修材料	・既製調合モルタル 保水率 (％) 単位容積質量 (kg/ℓ) 接着強さ (N/mm ²) 長さ変化率 (％) 曲げ強さ (N/mm ²) 70.0以上 1.80程度 0.60程度 0.40以上 0.20以下 4.0以上 ・パテ状エポキシ樹脂 初期硬化性 (N/mm ²) 接着強さ (標準) (N/mm ²) 圧縮強さ (N/mm ²) 曲げ強さ (N/mm ²) 硬化収縮率 (％) 標準2.0以上 標準6.0以上 50.0以上 30.0以上 3.0以下 (1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 (3) 常温常温 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造所の指定する期間又は製造後6箇月間保存したものであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。 (4) 試験方法は、JIS A 6024 (建築補修用注入エポキシ樹脂) に準ずる。 ・可とう性エポキシ樹脂 比重 押出し性 (秒) スランプ (mm) 加熱減量 (％) 引張強さ (N/mm ²) 伸び (％) 引張接着性 表示値 ±0.10 60以下 3.0以下 5.0以下 常温物性1.0以上 低温物性 1.0以上 加熱劣化1.0以上 常温物性30.0以上 低温物性 30.0以上 加熱劣化30.0以上 最大引張応力 1.0 N/mm ² 以上 破断時の伸び 10.0%以上 (1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 (3) 常温常温 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造所の指定する期間又は製造後6箇月間保存したものであっても、上記の品質性能の各項目に適合していること。 ・タイル部分張替え工法用接着剤 適用範囲 張替え面積が比較的小さく、下地モルタルが健全な場所に用いる。 樹脂の種類 変成シリコーン樹脂系、ウレタン樹脂系 接着強さ 標準 低温硬化 アルカリ温水 凍結融解 熱劣化 強度 (N/mm ²) 0.60以上 0.40以上 0.40以上 0.40以上 0.40以上 凝集破壊率 (％) 75以上 50以上 50以上 50以上 50以上 皮膚物性 標準 高温 低温 アルカリ温水 熱劣化 引張強さ (N/mm ²) 0.60以上 0.60以上 0.60以上 0.40以上 0.40以上 伸び (％) 35以上 35以上 35以上 25以上 25以上 貯蔵安定性 質量の変化が5%以内で、かつ、均質で異物が認められないこと。 (一液形のみ) 混練終結確認容易性 混練終結時の色が明瞭であること。 (二液形のみ) 耐熱性 JIS A 5557の試験において、80℃で4週間1kgの重りで安定していること。 ずれ抵抗性 ずれが生じないこと。 (1) 外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。 (2) タイル、下地材等を侵すものでないこと。 (3) 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」に規定された第一種特定化学物質及び第二種特定化学物質、並びに「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 常温常温 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6箇月間保存しても上記の品質性能に適合していること。 ・エポキシ樹脂モルタル 接着強さ (N/mm ²) 圧縮強さ (N/mm ²) 曲げ強さ (N/mm ²) 1.0以上 20.0以上 10.0以上 (1) こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上りが良好であること。 (2) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (3) 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 (4) 形状に異常がなく、だれが生じないこと。 (5) 常温常温 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6箇月間保存しても上記の品質性能に適合していること。 ・ポリマーセメントモルタル 種類 合成ゴム系、アクリル系、エチレン酢ビ系等 曲げ強さ (N/mm ²) 圧縮強さ (N/mm ²) 接着強さ (N/mm ²) 標準時 標準時 低温時 6.0以上 20.0以上 1.0以上 0.8以上 0.5以上 (1) 表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。 (2) 透水性 裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 (3) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 (4) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルジョンは、常温常温において製造後6箇月間保存しても変質しないこと。 ・ポリマーセメントスラリー 広がり速度 (cm/s) 長さ変化率 (収縮) (％) 引張接着性 (材齢28日) (N/mm ²) 曲げ性能 (材齢28日) (％) 吸水性 (72時間) (％) 耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²) 3以上 3以下 3以下 5.0以上 5.0以上 15%以下 5.0以上 保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00 ・吸水調整材 全固形分 (％) 吸水量 (g) 接着強度 (N/mm ²) 界面破壊率 (％) 表示値±1.0以内 30分間で1以下 0.98以上 50以下 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。	4-2 ② 既存モルタル張りの撤去 ・行う (※全面 ・図示の範囲) 2 ひび割れ部改修工法 ・既存モルタル撤去工法 (範囲は図示 撤去部分の補修は、3.欠損部改修工法による) ※樹脂注入工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面) [4.1.4] [4.4.2] [4.4.5] 注入工法の種類 ひび割れ幅 (mm) 注入口間隔 (mm) 注入量 (m ³ /m) 備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0未満 ※200～300 ※130 ・ ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3未満 ※50～100 ※40 ・ 0.3以上～0.5未満 ※100～200 ※70 ・ ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上～1.0未満 ※150～250 ※130 ・ 注入工法 ・ ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形) [4.2.2] 検査 (コア抜き) ※行わない [4.3.4] ・行う (採取部の補修方法:) ・Uカットシール材充填工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.4.6] 充填材料 品質・規格等 備考 ・シーリング材 ※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材 ※行わない ・行う ・可とう性エポキシ樹脂 ・シール工法 (※既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面) [4.1.4] [4.2.2] [4.4.7] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ・既存張り仕上材の撤去及び補修 [4.4.2] [4.6.3] (※シール工法の範囲) 3 欠損部改修工法 既存モルタル面の欠損部 [4.1.4] [4.4.8.9] 改修工法の種類 材 料 品質・規格等 ・充填工法 ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 改修機仕4.2.2 (g) による 既製目地材 塗厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・行わない ・図示 (形状 ※図示) 4 浮き部改修工法 [4.1.4] [4.4.10～15] [表4.4.3.4] 改修工法の種類 アンカービンの本数 (本/m ²) 注入口の箇所数 (箇所/m ²) 充填量又は注入量 (箇所/m ³) 一般部 指定部 一般部 指定部 ・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 ※25 ※25 ・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 ・アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※50 ・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25 ※25 ・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 ・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50 アンカーピン 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径4mmの丸棒で全ねじ切り加工したもの [4.2.2] 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径外径6mm [4.2.2] 5 タイル張り タイルの種類 [4.2.2] [4.5.7.8] 施工箇所 形状寸法 (mm) うわぐすり ぬゆう/無ゆう I II III 吸水性 耐凍害性 役物 色 再生材の備考 標準的な曲がり (小口、標準、二丁、びょうぶ) の役物と一体成形とする。 タイルの見本焼き ※行わない ・行う 壁タイル張りの工法 [4.5.7.8] [表4.5.3] 外装タイル ※密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り 外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り タイルの試験張り ※行わない ・行う [4.2.2] 6 目地改修工法 [4.1.4] [4.5.16] 目地ひび割れ部改修工法 既製調合モルタル ・使用する [4.1.4] [4.5.16] ・伸縮調整目地改修工法 [4.1.4] [4.5.16] シーリング用材料 [3.7.2] [表3.7.1] 種類 ※改修機仕3.7.1による	4-4 ③ 仕上塗材仕上げ		

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事
図面名	庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書 (2)
年月日	令和 5年 9月
尺度	- 図面番号 A-02
会社名	
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所

6 内装工事 14 フローリング張り 単層フローリング [6.11.2-6] [表6.11.1.2] 種類 樹種 厚さ(mm) 大きさ(mm) 緩衝材 工法 ... 15 畳敷き [6.12.2] [表6.12.1] 下地の種類 畳の種類 ... 16 ポリスチレンフォーム床下地材 [6.13.2] [表6.13.1] 種 類 JISの記号 厚さ(mm) 規格等 ... 17 せっこうボード及びその他ボード張り [6.13.2] [表6.13.1] 種 類 JISの記号 厚さ(mm) 規格等 ... 18 壁紙張り [6.14.2] 壁紙の種類 防火性能 備考 ...

19 モルタル塗り [6.15.3] 防水剤(防水モルタル塗りの混入剤) [6.15.3] 防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする。 ... 20 タイル張り [6.16.3] タイルの種類 形状寸法 うわぐすり 吸水率 耐凍害性 役物 色 再生材の備考 ... 21 セルフレベリング材塗り [6.17.2] [表6.17.1] ・せっこう系(施工箇所及び厚さ ※仕上表による ・図示 ・) ... 22 浴室天井材 市販品 材質 表面仕上げ 性能 幅(mm) 備考 ... 23 フリーアクセスフロア [20.2.2] 施工箇所 構法 仕上り高 適用地震時 水平力 耐荷重性能 表面仕上げ材 備考 ... 24 可動間仕切 [20.2.3] 構造形式 バネ部 表面材種 表面仕上げ 遮音性能 防火性能 ... 25 移動間仕切 [20.2.4] 遮音性能 厚さ(mm) 表面材 表面仕上げ 操作方法 ... 26 トイレブース [20.2.5] 表面仕上げ材 表面材の材質 脚部 ドアエッジ ... 27 階段滑り止め [20.2.6] 材 種 幅(mm) 取付け工法 端部フラットエンド ... 28 階段手すり 材 種 表面仕上げ 直径(mm) 取付箇所 ...

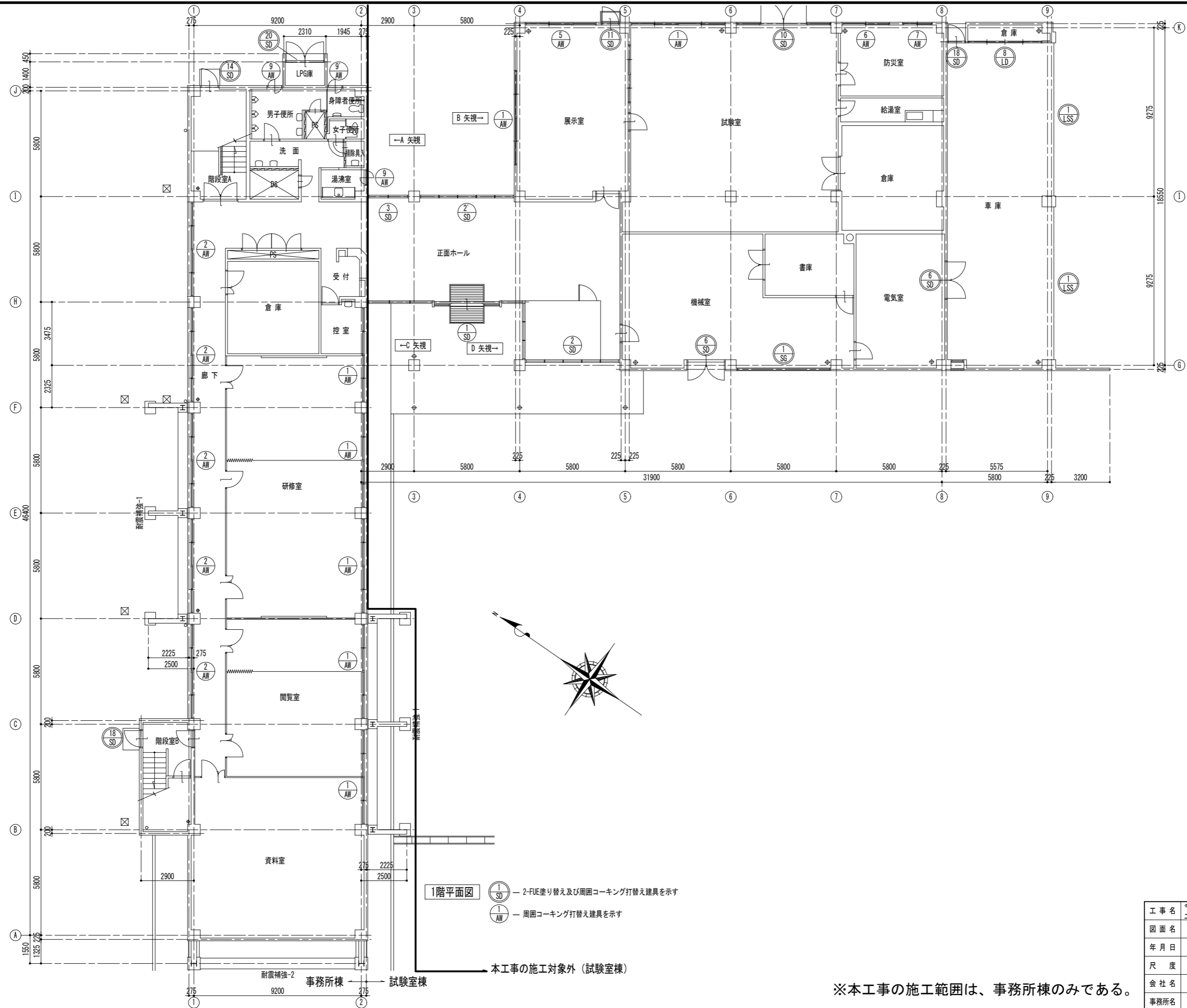
29 黒板及びホワイトボード (20.2.8) 種類 寸法(mm) 色 備考 ... 30 表示 (20.2.10) 区分 材質 寸法(mm) 厚さ(mm) 取付け高さ 書体 ... 31 ブラインド (2.3.1) [5.1.6] ・既存再使用する(養生方法:) ... 32 ロールスクリーン (20.2.13) 材 種 操作方式 遮光性能 寸法(mm) 施工箇所 備考 ... 33 カーテン (2.3.1) [5.1.6] ・既存再使用する(養生方法:) ... 34 カーテンレール [5.1.6] [20.2.14] ・既存再使用する ... 35 ブラインドボックス及びカーテンボックス [5.1.6] ・既存再使用する ... 36 天井点検口 材 種 寸法 形式 外枠 内枠 ... 37 床点検口 材 種 寸法 形式 ... 38 防塵障れ壁 ・固定式 材質 厚さ(mm) 高さ(mm) 備考 ... ・可動式 種類 材質 高さ(mm) 備考 ... 39 視覚障害者用床タイル (19.2.2) 施工箇所 種類 寸法(mm) 厚さ(mm) ...

40 くつふきマット 材 種 受 控 備考 ... 41 流し台ユニット 種類 寸法(L=mm) 適用内容 規格・品質等 ... 42 洗面カウンター 材 種 ・メラミン樹脂化粧板張り(心材:集成材) ・人工大理石 ... 43 収納家具 材質 ・ 形状・寸法 ・図示 ... 44 鋼製書架及び物品棚 種類 規格等 耐荷重による種類 ... 45 屋内掲示板 材の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ...

工事名 令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事
図面名 庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書(4)
年月日 令和 5年 9月
尺度 - 図面番号 A-04
会社名
事業(務)所名 近畿農政局 土地改良技術事務所

⑦ 塗装改修工事	1 材料	建築物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外 ・第三種 建築物内部に使用する塗料の材質 ・水性系 ・ 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする。(施工箇所：)	[7.1.3] [7.1.3]
	② 下地調整	既存塗膜の除去範囲 (塗替えでR種の場合) ※塗替え面積の30% ・図示	[7.2.1] [表7.2.1~7]
	③ 錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種類等 [7.4.2.3] [表7.4.1~4]	[7.4.2.3] [表7.4.1~4]
	④ 塗装	塗装の種類	[7.5.1~7.16.2] [表7.5.1~7.13.1]
8-1 耐震改修工事 共通事項	1 適用範囲	工事内容 ・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・鉄骨プレースの設置工事 ・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) ・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き工法) ・柱補強工事 (連続繊維補強工法) ・耐震スリット新設工事 ・免震改修工事 ・制振改修工事	[8.1.1]
	2 既存部分の撤去等	撤去範囲 ・図示 既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断 はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置 ※露出部分は、錆止め塗料塗りをを行う	[8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3]
	2 既存部分の処理	既存コンクリート面の目荒し 適用範囲 ※既存コンクリートとの打継ぎ面 ※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充填部の接合面 目荒しの範囲 ・柱、梁面 打継ぎ面又は接合面全面の15~30%程度 ・壁 打継ぎ面又は接合面全面の10~15%程度 目荒しの程度 ※平均深さ2~5mm (最大7mm) 程度の凹面を、全体にわたってつける。	[8.19.3] [8.20.3] [8.21.3]
	1 鉄筋	鉄筋の種類 種類の記号 呼び名 (mm)	[8.2.1] [表8.2.1]
	2 溶接金網	網目の形状、寸法等 網目の形状、寸法 (縦×横) (mm) 鉄筋の径又は呼び名 (mm) 規格 ※100×100 ※6.0 JIS G 3551による	[8.2.2]
	3 鉄筋の継手及び定着	継手方法等 部位 継手方法 呼び名 (mm) 柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・機械式継手 その他の鉄筋 () ※重ね継手	[8.3.4] [8.4.2.3]
	3 鉄筋の重ね手の長さ	鉄筋の重ね手の長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示)	[8.3.4]
	3 鉄筋の定着長さ	鉄筋の定着長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示)	[8.3.4]
	4 鉄筋のかぶり厚さ	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。	[8.3.5] [表8.3.6]
	5 壁の配筋	壁配筋の重ね手の長さ ※壁配筋の重ね手の長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示) 壁配筋の定着長さ ※図示	[8.3.7] [8.3.7]
6 壁開口部の補強	耐震壁の開口部補強 ※図示	[8.3.8] [表8.3.8] [図8.3.7]	
7 ガス圧接	圧接部の確認試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験	[8.3.9]	
8 既存構造体との取合い	割製補強筋 種類 材料 材質 径 本数ピッチ等 適用箇所 ※スライラル筋 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 ※SR235 ※φ6 () φ9 () φ11 (5φの呼び) ()	[8.19.6] [8.20.7]	
8-2 撤去工事	1 鉄筋	鉄筋の種類 種類の記号 呼び名 (mm) ・SD295A ※D16以下 ・SD345 ※D19以下	[8.2.1] [表8.2.1]
	2 溶接金網	網目の形状、寸法等 網目の形状、寸法 (縦×横) (mm) 鉄筋の径又は呼び名 (mm) 規格 ※100×100 ※6.0 JIS G 3551による	[8.2.2]
	3 鉄筋の継手及び定着	継手方法等 部位 継手方法 呼び名 (mm) 柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・機械式継手 その他の鉄筋 () ※重ね継手	[8.3.4] [8.4.2.3]
	3 鉄筋の重ね手の長さ	鉄筋の重ね手の長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示)	[8.3.4]
	3 鉄筋の定着長さ	鉄筋の定着長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示)	[8.3.4]
	4 鉄筋のかぶり厚さ	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。	[8.3.5] [表8.3.6]
	5 壁の配筋	壁配筋の重ね手の長さ ※壁配筋の重ね手の長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示) 壁配筋の定着長さ ※図示	[8.3.7] [8.3.7]
	6 壁開口部の補強	耐震壁の開口部補強 ※図示	[8.3.8] [表8.3.8] [図8.3.7]
	7 ガス圧接	圧接部の確認試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験	[8.3.9]
	8 既存構造体との取合い	割製補強筋 種類 材料 材質 径 本数ピッチ等 適用箇所 ※スライラル筋 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 ※SR235 ※φ6 () φ9 () φ11 (5φの呼び) ()	[8.19.6] [8.20.7]
8-3 あと施工アンカー工事	1 あと施工アンカー	材料等 ・金属系アンカー ・セッ方式 ※本体打込み式 引張耐力 ※図示 せん断耐力 ※図示 せん断耐力 ※図示 性能確認試験 ※実施する (試験方法及び試験数 ※図示) ・実施しない ・接着系アンカー ・アンカーの種類 ※カプセル型 引張耐力 ※図示 せん断耐力 ※図示 接着剤の品質 ※有機系 ・無機系 アンカー筋の種類 ※改修標準仕表8.2.1の異形棒鋼 ・金ねじボルト 性能確認試験 ※実施する (試験方法及び試験数 ※図示) ・実施しない	[8.2.4]
	2 穿孔前の埋込み配管等の探査	探査範囲 ※あと施工アンカー施工部分すべて 探査方法 ※鉄筋探査機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる	[8.11.2]
	3 施工確認試験	試験の適用 ※実施する (試験方法 ※引張試験) 確認強度 ※図示 ・実施しない	[8.11.5]
	4 シアコネクタ (現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いるシアコネクタ)	種類 ※金属拡張系あと施工アンカーの異形差筋アンカー 径 (mm) ※D10 既存壁への有効埋込み長さ (mm) ※7d (d : シアコネクタの径) 増打ち壁への有効着長さ (mm) ・ 間隔 (mm) ※500×500	[8.2.4] [8.3.7]
	5 型枠工事	シアコネクタとセパレーターの兼用 ※兼用してもよい ・兼用しない	[8.7.9]
	1 コンクリートの種類及び強度	レディーミクストコンクリートの種類 ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c (N/mm ²) 適用箇所 ・21 ・24	[8.1.3] [8.1.3]
	2 コンクリートの品質	スランプ (cm) 適用箇所 ※18 ・	[8.1.4]
	3 コンクリートの材料	セメントの種類 種類 適用箇所 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で325J/g以下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。	[8.2.5] [表8.2.3]
	4 コンクリートの調査強度	コンクリート強度の気温による補正值 室内の工事における温度補正 ・行う ・行わない	[8.5.5]
	5 無筋コンクリート	設計基準強度等 (6.14.1~3) 種類 設計基準強度 (N/mm ²) スランプ (cm) 粗骨材の最大寸法 (mm) 適用箇所 ※普通コンクリート ※18 ※15又は18 ※25 ・軽量コンクリート ・ ・ ・ 20	[6.14.1~3]
8-4 コンクリート工事	1 コンクリートの種類及び強度	レディーミクストコンクリートの種類 ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c (N/mm ²) 適用箇所 ・21 ・24	[8.1.3] [8.1.3]
	2 コンクリートの品質	スランプ (cm) 適用箇所 ※18 ・	[8.1.4]
	3 コンクリートの材料	セメントの種類 種類 適用箇所 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で325J/g以下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。	[8.2.5] [表8.2.3]
	4 コンクリートの調査強度	コンクリート強度の気温による補正值 室内の工事における温度補正 ・行う ・行わない	[8.5.5]
	5 無筋コンクリート	設計基準強度等 (6.14.1~3) 種類 設計基準強度 (N/mm ²) スランプ (cm) 粗骨材の最大寸法 (mm) 適用箇所 ※普通コンクリート ※18 ※15又は18 ※25 ・軽量コンクリート ・ ・ ・ 20	[6.14.1~3]
	1 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (特) 日本鉄骨評価センター又は (社) 全国鋼構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める () グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監督職員の承諾する工場	[8.1.5]
	2 入熱、バス間温度の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※鉄骨溶接基準図による 適用箇所 ※柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・図示 ()	[8.1.5] [8.14.2]
	3 施工管理技術者	※適用する ・適用しない	[8.1.5] [8.14.2]
	4 鋼材	鋼材の材質等 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JISによる ・	[8.2.4] [8.2.7] [表8.2.5]
	5 高力ボルト	ボルトの区分 ※T・シア形高力ボルト ・JIS高力ボルト ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ (別2-1.1~1.3) による すべり係数試験 ※行わない ・行う (試験方法等：)	[8.2.8] [8.1.6] (別2-1.1~1.3) [8.13.2]
6 溶接溶接の溶接条件	ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ (別2-1.1~1.3) による 摩擦面の処理 (7.12.4) ※プラスチック (表面粗度50μmRz以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験方法等 ・図示	[8.2.8] [8.1.6] (別2-1.1~1.3) [7.12.4]	
7 普通ボルト	ボルトの繰進距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ (別2-1.1~1.3) による	(7.2.3) [8.1.6] (別2-1.1~1.3)	
8 アンカーボルト	アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種類 ・構造用 (※図示) ・建方用 (・A種 ※B種 ・C種) 柱底均しモルタルの工法の種類 ※A種 ・B種	(7.10.3) (表7.10.1) (7.10.3) (表7.10.2)	
9 鉄骨工作仮組	・行う ※行わない	[8.12.9]	
10 溶接接合	開先の形状 ※鉄骨溶接基準図による 鋼製エンドタブの切除する部分 ※図示 スカラップの形状 ※鉄骨溶接基準図による	[8.14.4] (別2-3.1~3.4) [8.14.7] [8.14.7]	
11 スタッド (頭付きスタッド JIS B 1198)	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う ・行わない 放射線透過試験 ※行わない ・行う マクロ試験 (エンドタブ使用) ※行わない ・行う	[8.14.11] [8.14.11] [8.14.11]	
12 錆止め塗装	呼び名等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22 耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う (※JIS K 5622) ※行わない	[8.16.3]	
⑧ 工事名		令和5年度 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事	
⑧ 図面名		土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事 行外壁改修工事特記仕様書 (5)	
⑧ 年月日		令和5年9月	
⑧ 尺度		- 図面番号 A-05	
⑧ 会社名		-	
⑧ 事業(務)所名		近畿農政局 土地改良技術事務所	

8-5 鉄骨工事	1-3 耐火被覆	<p>種別等 [8.17.2~7]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>所要性能及び適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・耐火吹付け</td> <td>・乾式吹付けロックウール</td> </tr> <tr> <td>・耐火板張り</td> <td>・半乾式吹付けロックウール</td> </tr> <tr> <td>・耐火材巻付け</td> <td>・湿式吹付けロックウール</td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td></td> </tr> </table> <p>耐火被覆面への錆止め塗装 ・行わない ・行う (適用箇所:)</p>	種別	所要性能及び適用箇所	・耐火吹付け	・乾式吹付けロックウール	・耐火板張り	・半乾式吹付けロックウール	・耐火材巻付け	・湿式吹付けロックウール	・ラス張りモルタル塗り		8-8 スリットの施工	<p>既存撤去部の配管等の調査 [8.22.2]</p> <p>・鉄筋探査機 (金属探知機) により調査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う [8.22.2]</p> <p>・はつり出しによるスリットの幅及び深さ ※図示</p>	2 外断熱改修工事	<p>断熱材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類</th> <th>ホルムアルデヒド放散による区分</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> <td>・</td> <td>F☆☆☆☆等級</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>外装材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>防火性能</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ・あり ・なし [9.3.3]</p> <p>下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様 [9.3.3.4]</p> <p>通気層 ・あり (mm) ・なし [9.3.4]</p> <p>試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。 [9.3.4]</p> <p>特記なき事項は、製造所の仕様による。</p> <p>3 ガラス改修工事 [9.4.2]</p> <p>複層ガラスの厚さ 建具表による [9.4.2]</p> <p>複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性能による区分 ※U3-1 ・ U3-2 [9.4.2]</p> <p>4 断熱・防露改修工事 [9.5.2.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>発泡剤の種類等</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・A種 [G]</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・保温板2種B</td> <td>※25</td> <td>※一般部</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム保温材</td> <td>・</td> <td>※A種 [G]</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・吹付け硬質ウレタンフォーム</td> <td>※A種 [G]</td> <td>※15</td> <td>※断熱材補修部分</td> </tr> </table> <p>7 PCB含有シーリング材処分</p> <p>・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する 採取箇所数 計 箇所 採取箇所 ※図示</p> <p>・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う 分析箇所数 計 箇所</p> <p>・除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 ・「標準施工要領書」(日本シーリング工事業共同組合連合会・日本シーリング材工業会)による</p>	種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・	・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・	・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・	種類	防火性能	・	・	種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種B	※25	※一般部	・硬質ウレタンフォーム保温材	・	※A種 [G]	・	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	※15	※断熱材補修部分																																																																																														
種別	所要性能及び適用箇所																																																																																																																																																																	
・耐火吹付け	・乾式吹付けロックウール																																																																																																																																																																	
・耐火板張り	・半乾式吹付けロックウール																																																																																																																																																																	
・耐火材巻付け	・湿式吹付けロックウール																																																																																																																																																																	
・ラス張りモルタル塗り																																																																																																																																																																		
種類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ (mm)																																																																																																																																																															
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																															
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																															
・硬質ウレタンフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																															
・フェノールフォーム保温材	・A種 [G]	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																															
・ロックウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																															
・グラスウール	・	F☆☆☆☆等級	・																																																																																																																																																															
種類	防火性能																																																																																																																																																																	
・	・																																																																																																																																																																	
種類	発泡剤の種類等	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																																																																															
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・A種 [G]	・	・																																																																																																																																																															
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種B	※25	※一般部																																																																																																																																																															
・硬質ウレタンフォーム保温材	・	※A種 [G]	・																																																																																																																																																															
・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種 [G]	※15	※断熱材補修部分																																																																																																																																																															
8-6 コンクリート工事	1 モルタル及びグラウト材	<p>構造体用モルタル [8.2.10] [8.5.10]</p> <p>※ [8.2.10] 及び [8.5.10] による</p> <p>柱底均しモルタル [8.2.10]</p> <p>※無収縮モルタル</p> <p>グラウト材 [8.2.10]</p> <p>※無収縮グラウト材 (セメント、混和材、砂は無収縮モルタルに準ずる)</p> <p>無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は次による</p> <p>無収縮モルタルの材料及び割合</p> <table border="1"> <tr> <th>混和材</th> <td>セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。</td> </tr> <tr> <th>セメント</th> <td>JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。</td> </tr> <tr> <th>砂</th> <td>(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。</td> </tr> <tr> <th>配合比</th> <td>(各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1</td> </tr> </table> <p>無収縮モルタルの品質及び試験方法 [表8.2.8]</p> <table border="1"> <tr> <th>コンシステンシー</th> <td>Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒</td> </tr> <tr> <th>ブリーディング</th> <td>練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下</td> </tr> <tr> <th>凝結時間</th> <td>凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内</td> </tr> <tr> <th>無収縮性</th> <td>材齢 7日 収縮しないこと</td> </tr> <tr> <th>圧縮強度</th> <td>材齢 3日 25.0 N/mm² 以上 材齢 28日 45.0 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>付着強度</th> <td>材齢 28日 3.0 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>塩化物量</th> <td>0.30kg/m³ 以上</td> </tr> </table> <p>試験方法 (1) 日本道路公団規格JHS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。</p> <p>無収縮グラウト材の材料 (プレミックス及び現場調合)</p> <table border="1"> <tr> <th>混和材</th> <td>セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。</td> </tr> <tr> <th>セメント</th> <td>JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。</td> </tr> <tr> <th>砂</th> <td>(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。</td> </tr> </table> <p>無収縮グラウト材の品質及び試験方法 (現場調合形においては標準使用量・配合値)</p> <table border="1"> <tr> <th>コンシステンシー</th> <td>Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒</td> </tr> <tr> <th>ブリーディング</th> <td>練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下</td> </tr> <tr> <th>凝結時間</th> <td>凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内</td> </tr> <tr> <th>無収縮性</th> <td>材齢 7日 収縮しないこと</td> </tr> <tr> <th>圧縮強度</th> <td>材齢 3日 20.0 N/mm² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>付着強度</th> <td>材齢 28日 2.5 N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <th>塩化物量</th> <td>0.30kg/m³ 以上</td> </tr> </table> <p>試験方法 (1) 日本道路公団規格JHS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6 塩化物含有量の試験方法による。</p>	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。	セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。	砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。	配合比	(各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1	コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒	ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内	無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと	圧縮強度	材齢 3日 25.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 45.0 N/mm ² 以上	付着強度	材齢 28日 3.0 N/mm ² 以上	塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。	セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。	砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。	コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒	ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内	無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと	圧縮強度	材齢 3日 20.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm ² 以上	付着強度	材齢 28日 2.5 N/mm ² 以上	塩化物量	0.30kg/m ³ 以上	9 環境配慮改修工事	<p>1 アスベスト含有建材の処理工事 [9.1.1]</p> <p>分析によるアスベスト含有の調査 [9.1.1]</p> <p>・行う (採取箇所 ※図示)</p> <p>調査方法</p> <table border="1"> <tr> <th>材料名</th> <th>調査方法 (1材料当たりの試料数)</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)</td> </tr> </table> <p>分析方法 ※JIS A 1481 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法) による</p> <p>分析結果については、監督職員に報告すること 報告書の様式 ・ (社) 日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」</p> <p>アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1]</p> <p>・行う (測定箇所 ※図示)</p> <p>測定時期、場所及び測定点数</p> <table border="1"> <tr> <th>適用</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点数 (各処理作業室ごと)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内 施工区画周辺 又は敷地境界</td> <td>各 () 点 計2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定2</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内 セキュリティゾーン 入口</td> <td>各 () 点</td> <td>空気の流れを確認</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定3</td> <td>処理作業後</td> <td>施工区画周辺 又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>測定4</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内 搬出シート (隔離シート 搬出前)</td> <td>各 () 点 4方向各1点</td> <td></td> </tr> </table> <p>(1) 施工区画とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理室に直接又は間接的に係る区画。施工区画周辺とは、その区画境界の前縁(m以内)の範囲をいう。 (2) 処理作業室の面積が50m²以下の場合は2点、300m²までは3点とする。300m²を超えるような場合は、監督職員と協議する。</p> <p>測定方法 JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法-第1部: 光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法)による。</p> <p>種類 ※位相差顕微鏡法 試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法用として使用し、他方はその結果が高い場合 (10本/以上) に行う位相差・分散顕微鏡法に保存しておく。 ・位相差・分散顕微鏡法 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>測定3 (作業環境)</th> <th>測定1, 4, 5, 7 (室内環境)</th> <th>測定2, 6, 8 (大気環境)</th> </tr> <tr> <td>メンブレンフィルターの直径 (mm)</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量 (L/分)</td> <td></td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間 (分)</td> <td>5</td> <td>120</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>計数視野数</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>定量限界 (本/L)</td> <td>50</td> <td>0.5</td> <td>0.3</td> </tr> </table> <p>測定記録項目 (1) 除去するアスベスト含有建材の種類 (2) 測定点の位置の図面 (3) 測定日時、天候、気流 (4) 試料採取条件 (5) 標本作製方法 (6) 使用顕微鏡の種類 (開口数を含む) (7) 計数条件 (HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む) (8) 繊維数濃度 (位相差顕微鏡法の場合は総繊維数濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維数濃度) (9) 定量限界 (10) その他</p> <p>アスベスト含有吹付け材の除去 (レベル1) ・行う [9.1.3]</p> <p>除去対象範囲 ※図示</p> <p>除去工法 ※改修仕様9.1.3(b)(i)~(iv)による</p> <p>除去したアスベスト含有吹付け材等の処理 ※密封処理 (二重袋梱包) ・セメント固化 除去対象範囲 ※図示 作業場の隔離 ・行う ・行わない</p> <p>アスベスト含有保温材等の除去 (レベル2) ・行う [9.1.4]</p> <p>除去対象範囲 ※図示</p> <p>アスベスト含有成形板の除去 (レベル3) ・行う [9.1.5]</p>	材料名	調査方法 (1材料当たりの試料数)	・	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)	・	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)	・	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備考	・	測定1	処理作業前	処理作業室内 施工区画周辺 又は敷地境界	各 () 点 計2点		・	測定2	処理作業中	処理作業室内 セキュリティゾーン 入口	各 () 点	空気の流れを確認	・	測定3	処理作業後	施工区画周辺 又は敷地境界	4方向各1点		・	測定4	処理作業後	処理作業室内 搬出シート (隔離シート 搬出前)	各 () 点 4方向各1点			測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)	メンブレンフィルターの直径 (mm)	25	25	47	試料の吸引流量 (L/分)		5	10	試料の吸引時間 (分)	5	120	240	計数視野数	50	50	50	定量限界 (本/L)	50	0.5	0.3	5 屋上緑化改修工事 [9.6.1.2] <p>補給基盤及び材料 [9.6.1.2]</p> <p>・屋上緑化積層システム 芝及び地盤類の種類等 ※図示</p> <p>工法 [9.6.3]</p> <p>かん水装置 ・設置する (工事区分は図示による) 既存保護層の撤去 ・行う</p> <p>7 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.7.3]</p> <p>路床の構成及び厚さ [9.7.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>車道部</th> <th>歩道部</th> </tr> <tr> <td>・遮断層</td> <td>※150</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>※150</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>※150</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※150</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※50</td> </tr> </table> <p>路床安定処理 ※添加材料による安定処理 添加材料の種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 () kg/m³ 目標CBR ※5以上 ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m² 以上 厚さ (mm) 0.5~1.0 引張強度 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1.5×10cm/sec以上</p> <p>盛土の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</p> <p>遮断層及び凍上抑制層の材料 ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込砂利 ・砂 厚さは図示</p> <p>発生土の処理 ※構外搬出適切処理 ・構内指定場所に敷均し ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に処分 (搬出調査等を監督職員に提出する)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ※行う ・行わない 路床の軟固度試験 ※行う ・行わない 砂の粒度試験 ※行う ・行わない</p> <p>路盤材料 [9.7.4]</p> <p>・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン鉄線スラグ [G]</p> <p>路盤厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※100</p> <p>路盤の締固め試験 ※行う ・行わない</p> <p>舗装材料及び厚さ [9.7.5.6]</p> <p>車道部 ※改質アスファルトI型 厚さ (mm) ※50 歩道部 ※ストレートアスファルト 厚さ (mm) ※30</p> <p>透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない [9.7.9]</p>	種類	厚さ (mm)	車道部	歩道部	・遮断層	※150	・	・	・凍上抑制層	※150	・	・	・フィルター層	※150	・	・			※150	・				※50	8-7 連続繊維補強工事	<p>1 連続繊維補強工法 [8.21.7]</p> <p>・「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」(財)日本建築防災協会発行の第4章[補強工事の施工]による工法又は同等の性能を有する工法 ・(財)日本建築防災協会の評価を受けた工法</p> <p>2 連続繊維シート [8.2.11]</p> <p>連続繊維の材料 [8.2.11]</p> <p>・炭素繊維 ・アラミド繊維 ・ガラス繊維</p> <p>連続繊維の材質 [8.2.11]</p> <p>引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm² ・ ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm² ・ 繊維目付け量 ・ () g/m² ・ シート厚さ ・ () mm ・ シート張り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 ・ プライマー ・低臭型</p> <p>8.21.7</p> <p>下地処理 [8.21.7]</p> <p>仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱の隅角部の面取り ※図示 箇所 ※図示 大きさ ※図示 下地調整 ※行う ・ ひび割れ部改修 ・行う ・行わない 種類及び部位 ※図示 引張強度試験 ・行う ・行わない 試験数量 ※図示 付着強度試験 ・行う ・行わない 試験数量 ※図示</p>	<p>アスベスト含有吹付け材の除去 (レベル1) ・行う [9.1.3]</p> <p>除去対象範囲 ※図示</p> <p>除去工法 ※改修仕様9.1.3(b)(i)~(iv)による</p> <p>除去したアスベスト含有吹付け材等の処理 ※密封処理 (二重袋梱包) ・セメント固化 除去対象範囲 ※図示 作業場の隔離 ・行う ・行わない</p> <p>アスベスト含有保温材等の除去 (レベル2) ・行う [9.1.4]</p> <p>除去対象範囲 ※図示</p> <p>アスベスト含有成形板の除去 (レベル3) ・行う [9.1.5]</p>	<p>5 屋上緑化改修工事 [9.6.1.2]</p> <p>補給基盤及び材料 [9.6.1.2]</p> <p>・屋上緑化積層システム 芝及び地盤類の種類等 ※図示</p> <p>工法 [9.6.3]</p> <p>かん水装置 ・設置する (工事区分は図示による) 既存保護層の撤去 ・行う</p> <p>7 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.7.3]</p> <p>路床の構成及び厚さ [9.7.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>車道部</th> <th>歩道部</th> </tr> <tr> <td>・遮断層</td> <td>※150</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>※150</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>※150</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※150</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※50</td> </tr> </table> <p>路床安定処理 ※添加材料による安定処理 添加材料の種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () 添加量 () kg/m³ 目標CBR ※5以上 ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m² 以上 厚さ (mm) 0.5~1.0 引張強度 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1.5×10cm/sec以上</p> <p>盛土の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</p> <p>遮断層及び凍上抑制層の材料 ・遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切込砂利 ・砂 厚さは図示</p> <p>発生土の処理 ※構外搬出適切処理 ・構内指定場所に敷均し ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に処分 (搬出調査等を監督職員に提出する)</p> <p>路床土の支持力比 (CBR) 試験 ※行う ・行わない 路床の軟固度試験 ※行う ・行わない 砂の粒度試験 ※行う ・行わない</p> <p>路盤材料 [9.7.4]</p> <p>・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン鉄線スラグ [G]</p> <p>路盤厚さ (mm) 車道部 ※150 歩道部 ※100</p> <p>路盤の締固め試験 ※行う ・行わない</p> <p>舗装材料及び厚さ [9.7.5.6]</p> <p>車道部 ※改質アスファルトI型 厚さ (mm) ※50 歩道部 ※ストレートアスファルト 厚さ (mm) ※30</p> <p>透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行う ・行わない [9.7.9]</p>	種類	厚さ (mm)	車道部	歩道部	・遮断層	※150	・	・	・凍上抑制層	※150	・	・	・フィルター層	※150	・	・			※150	・				※50	<p>工事名 令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事</p> <p>図面名 庁舎外壁改修 改修工事特記仕様書 (6)</p> <p>年月日 令和 5年 9月</p> <p>尺度 - 図面番号 A-06</p> <p>会社名</p> <p>事業(務)所名 近畿農政局 土地改良技術事務所</p>
混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。																																																																																																																																																																	
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。																																																																																																																																																																	
砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。																																																																																																																																																																	
配合比	(各重量比) (セメント+混和材) : 砂 = 1 : 1																																																																																																																																																																	
コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒																																																																																																																																																																	
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下																																																																																																																																																																	
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内																																																																																																																																																																	
無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと																																																																																																																																																																	
圧縮強度	材齢 3日 25.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 45.0 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																	
付着強度	材齢 28日 3.0 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																	
塩化物量	0.30kg/m ³ 以上																																																																																																																																																																	
混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの) とする。																																																																																																																																																																	
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。																																																																																																																																																																	
砂	(社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。																																																																																																																																																																	
コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒																																																																																																																																																																	
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下																																																																																																																																																																	
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内																																																																																																																																																																	
無収縮性	材齢 7日 収縮しないこと																																																																																																																																																																	
圧縮強度	材齢 3日 20.0 N/mm ² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																	
付着強度	材齢 28日 2.5 N/mm ² 以上																																																																																																																																																																	
塩化物量	0.30kg/m ³ 以上																																																																																																																																																																	
材料名	調査方法 (1材料当たりの試料数)																																																																																																																																																																	
・	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)																																																																																																																																																																	
・	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)																																																																																																																																																																	
・	※定性分析 (※3) ・ 定量分析 (※3)																																																																																																																																																																	
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業室ごと)	備考																																																																																																																																																													
・	測定1	処理作業前	処理作業室内 施工区画周辺 又は敷地境界	各 () 点 計2点																																																																																																																																																														
・	測定2	処理作業中	処理作業室内 セキュリティゾーン 入口	各 () 点	空気の流れを確認																																																																																																																																																													
・	測定3	処理作業後	施工区画周辺 又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																																																														
・	測定4	処理作業後	処理作業室内 搬出シート (隔離シート 搬出前)	各 () 点 4方向各1点																																																																																																																																																														
	測定3 (作業環境)	測定1, 4, 5, 7 (室内環境)	測定2, 6, 8 (大気環境)																																																																																																																																																															
メンブレンフィルターの直径 (mm)	25	25	47																																																																																																																																																															
試料の吸引流量 (L/分)		5	10																																																																																																																																																															
試料の吸引時間 (分)	5	120	240																																																																																																																																																															
計数視野数	50	50	50																																																																																																																																																															
定量限界 (本/L)	50	0.5	0.3																																																																																																																																																															
種類	厚さ (mm)	車道部	歩道部																																																																																																																																																															
・遮断層	※150	・	・																																																																																																																																																															
・凍上抑制層	※150	・	・																																																																																																																																																															
・フィルター層	※150	・	・																																																																																																																																																															
		※150	・																																																																																																																																																															
			※50																																																																																																																																																															
種類	厚さ (mm)	車道部	歩道部																																																																																																																																																															
・遮断層	※150	・	・																																																																																																																																																															
・凍上抑制層	※150	・	・																																																																																																																																																															
・フィルター層	※150	・	・																																																																																																																																																															
		※150	・																																																																																																																																																															
			※50																																																																																																																																																															



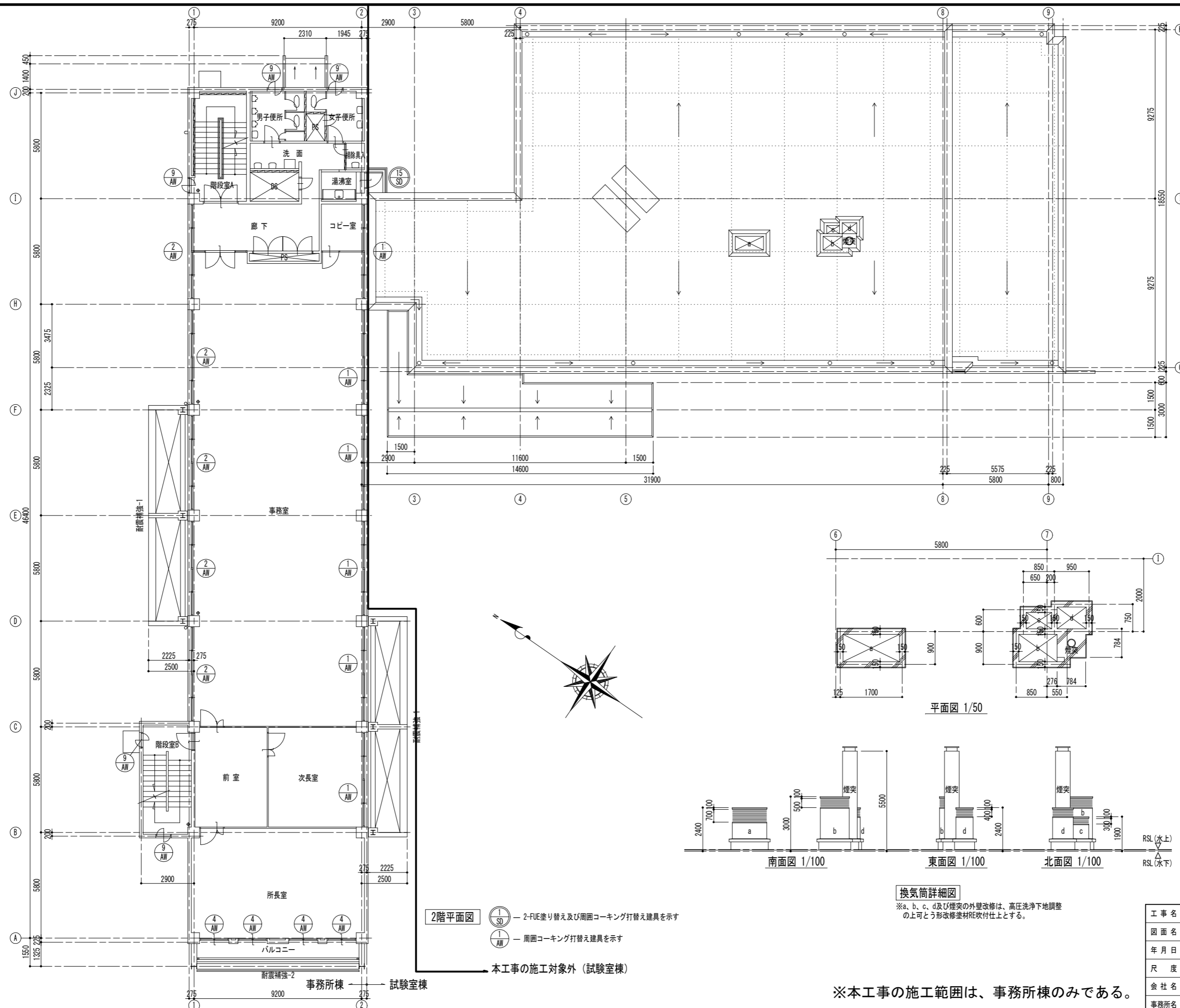
1階平面図

- (SD) 2-FUE塗り替え及び周囲コーキング打替え建具を示す
- (AW) 周囲コーキング打替え建具を示す

本工事の施工対象外（試験室棟）

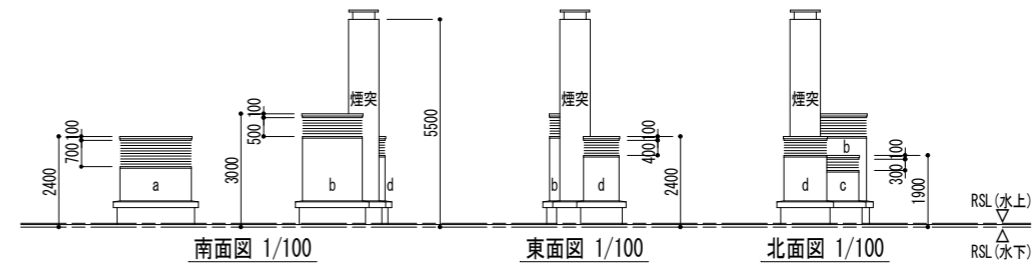
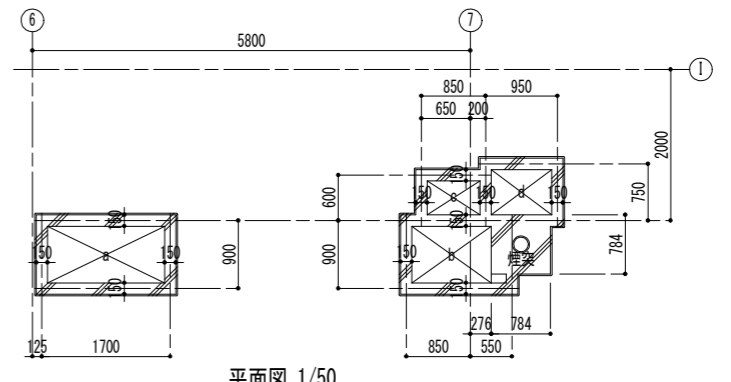
※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 1階平面図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-07
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



- 2階平面図**
- ① SD - 2-FUE塗り替え及び周囲コーキング打替え建具を示す
 - ① AW - 周囲コーキング打替え建具を示す

本工事の施工対象外（試験室棟）

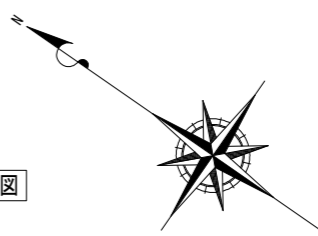
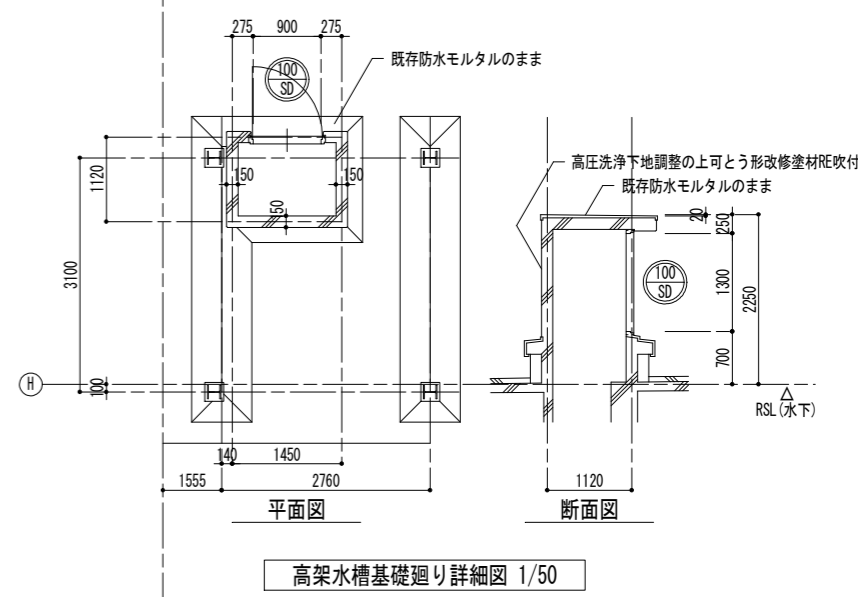
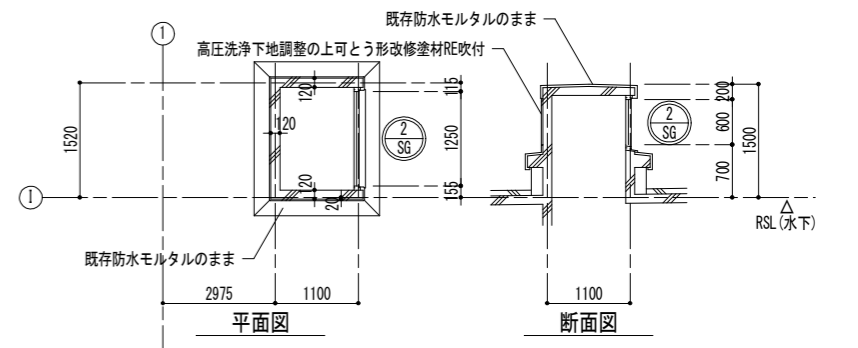
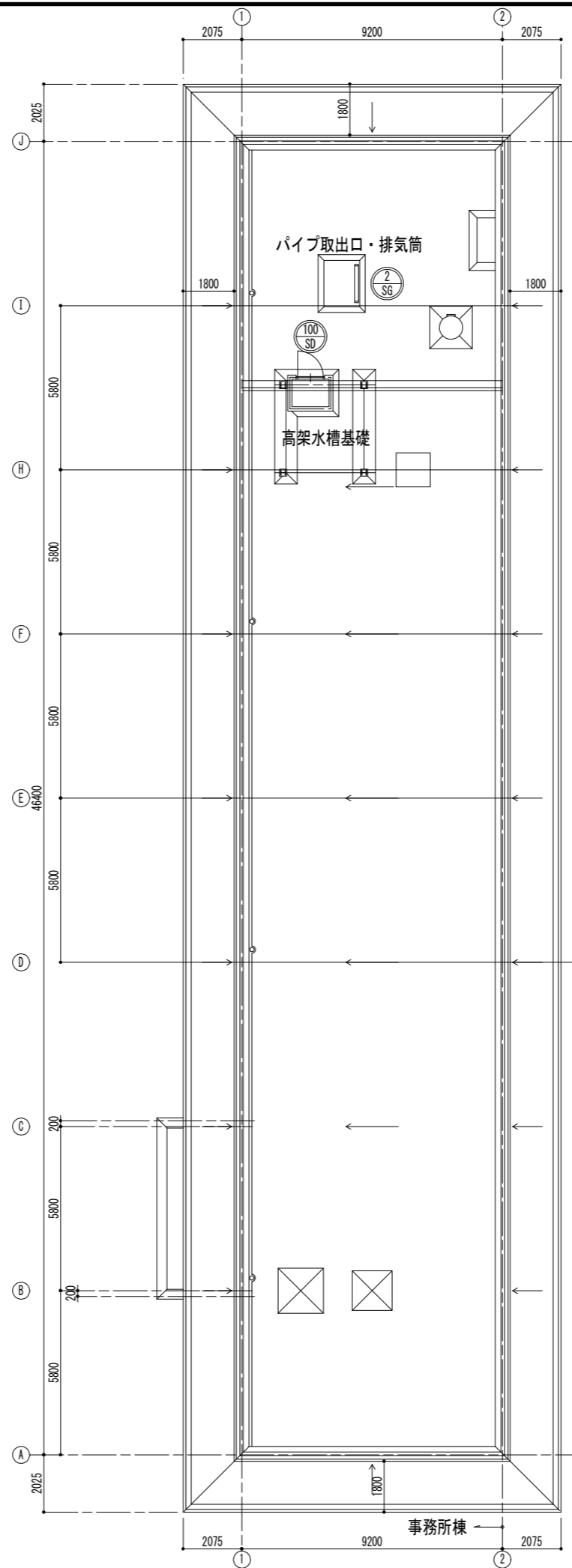
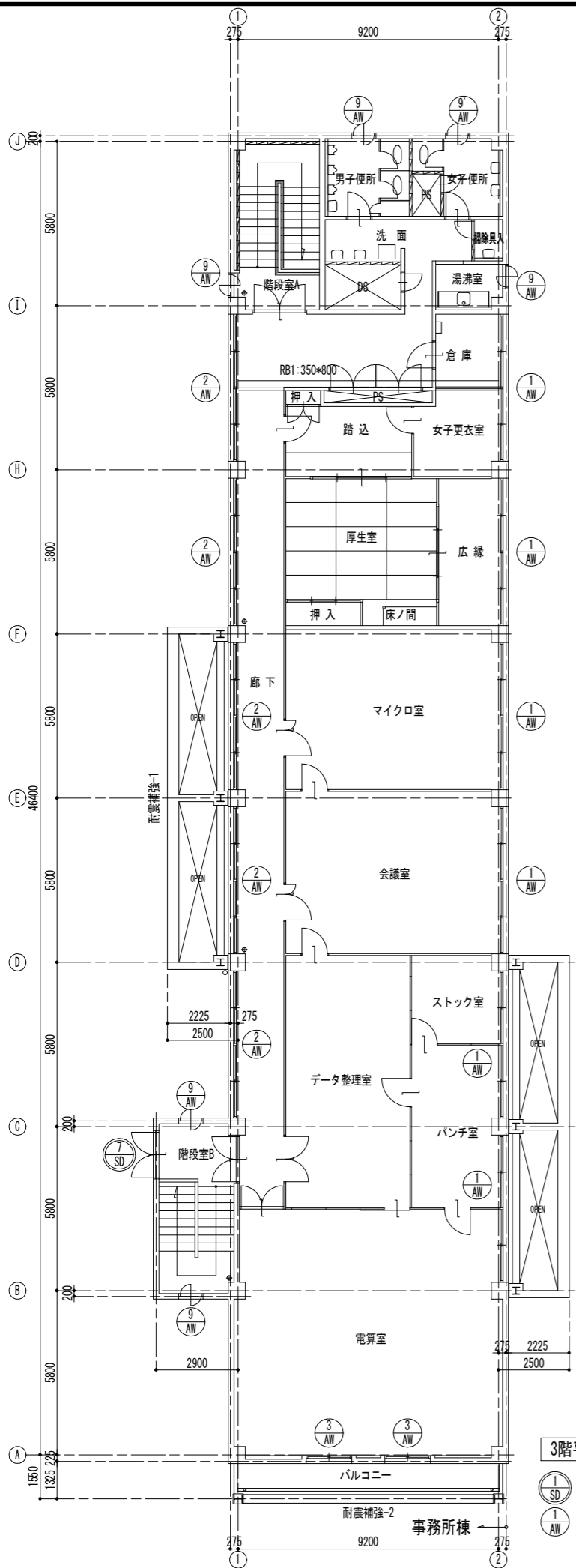


換気筒詳細図

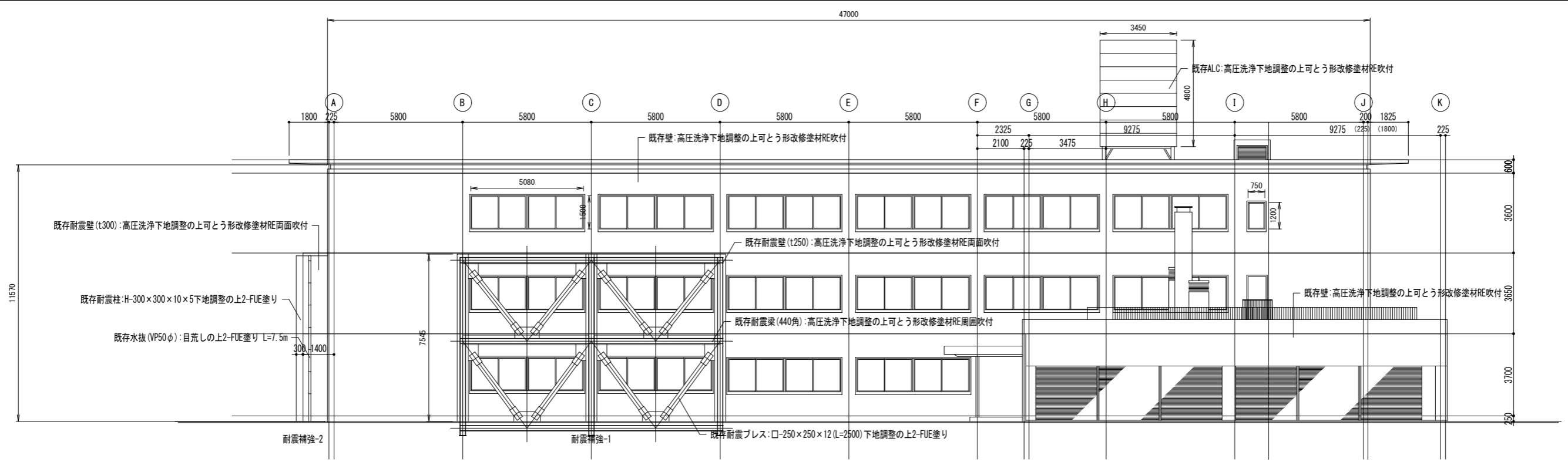
※a, b, c, d及び煙突の外壁改修は、高圧洗浄下地調整の上可とう形改修塗材RE吹付仕上とする。

※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。

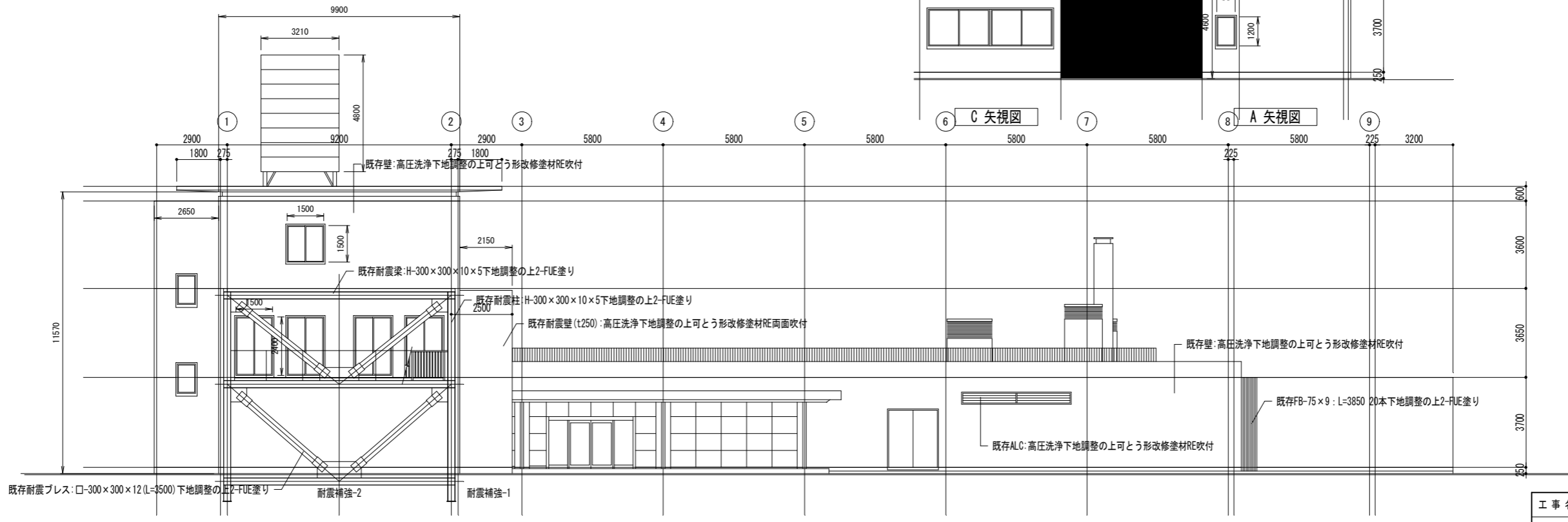
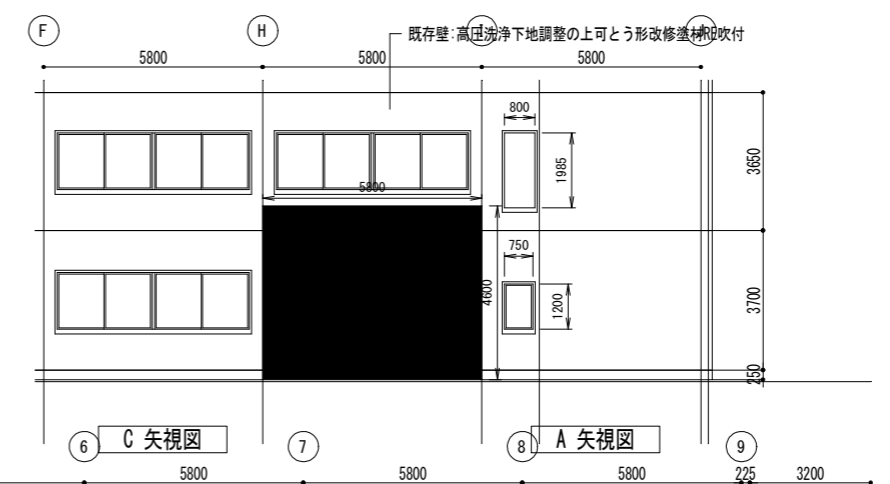
工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 2階平面図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/50, 1/100 A3:1/100, 1/200	図面番号	A-08
会社名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 3階・屋根平面図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-09
会社名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



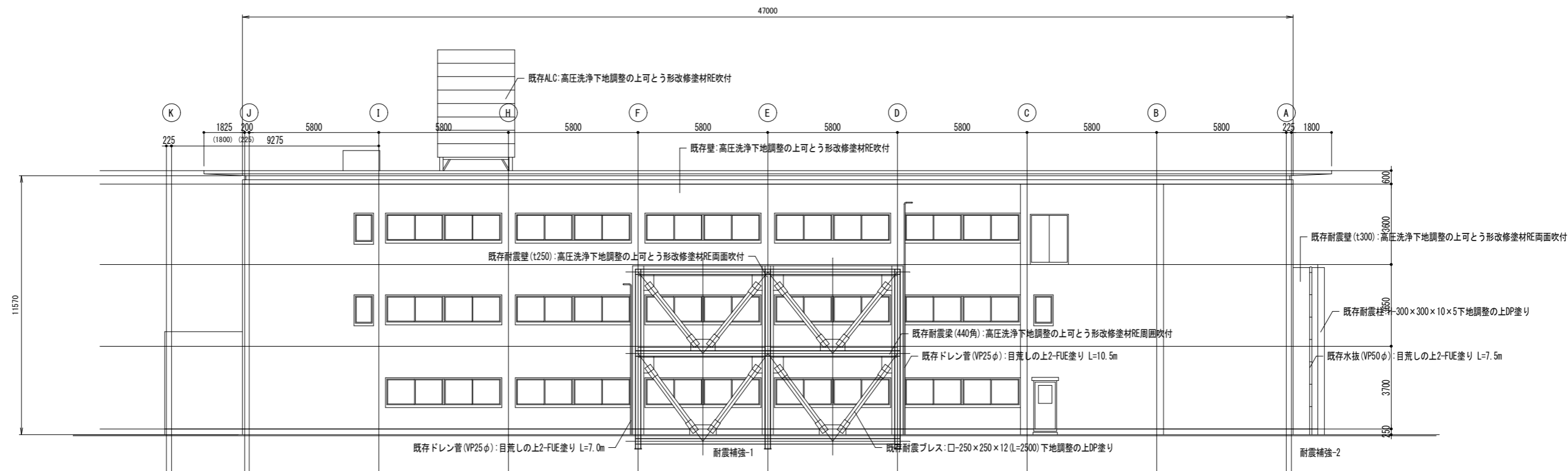
東側立面図



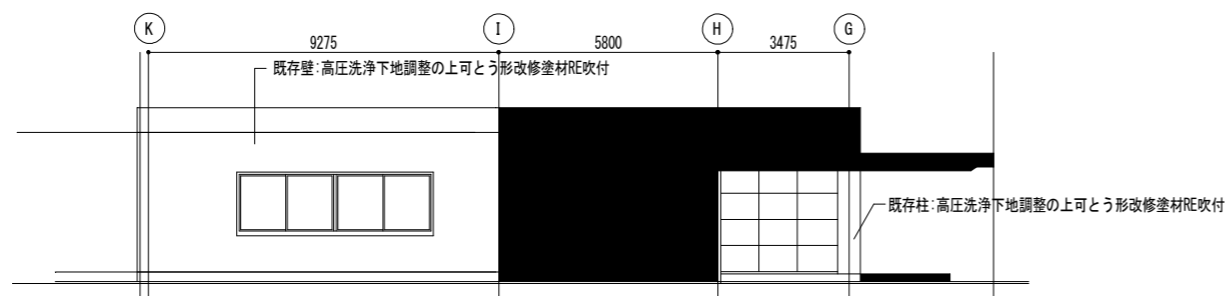
南側立面図

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 東・南側立面図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-10
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

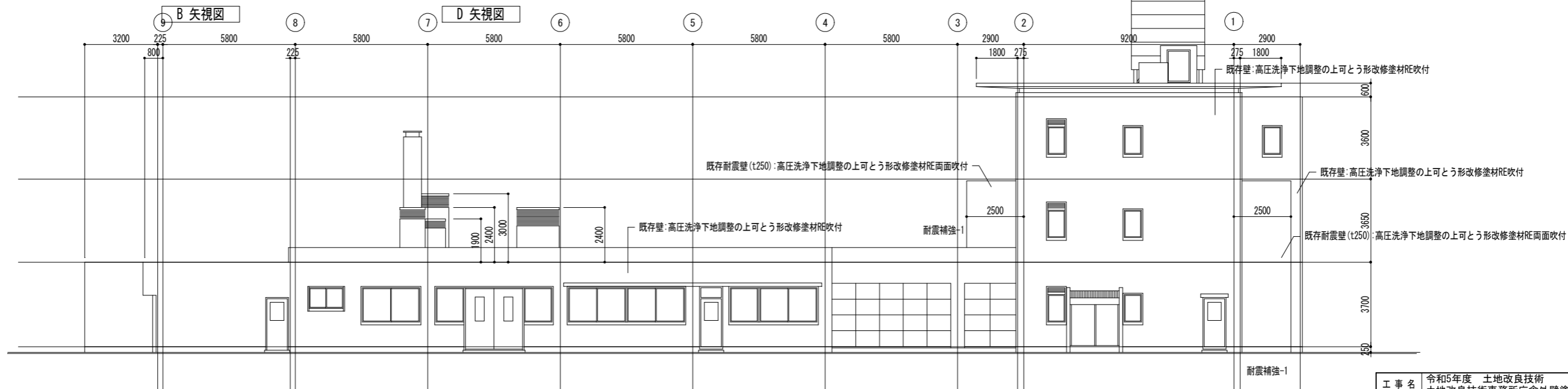
※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。



西側立面図

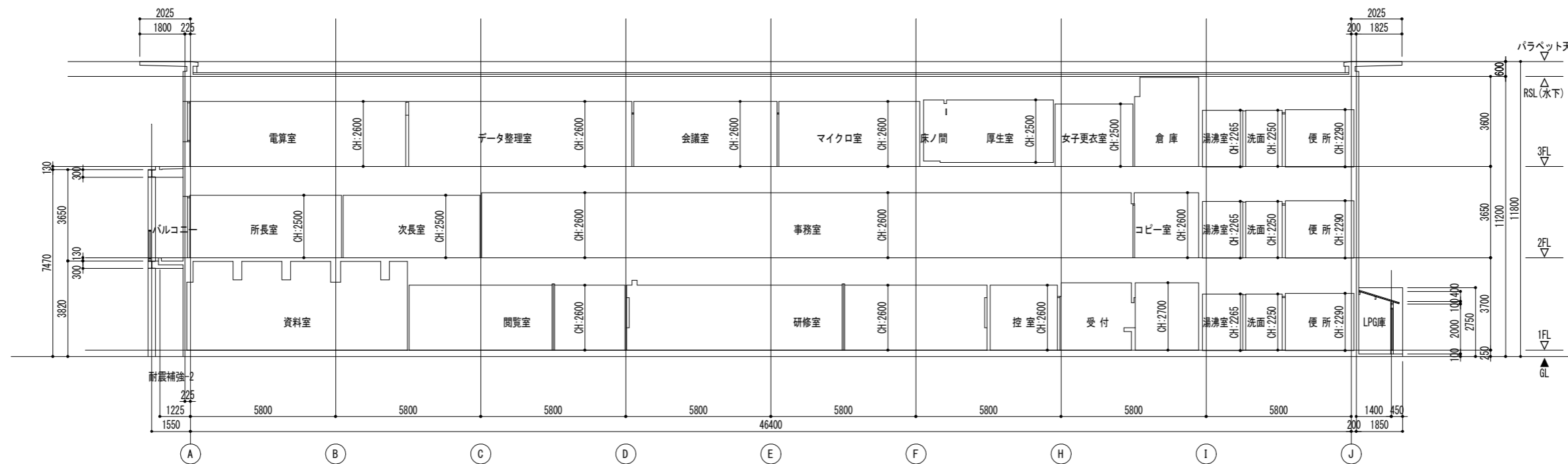


北側立面図

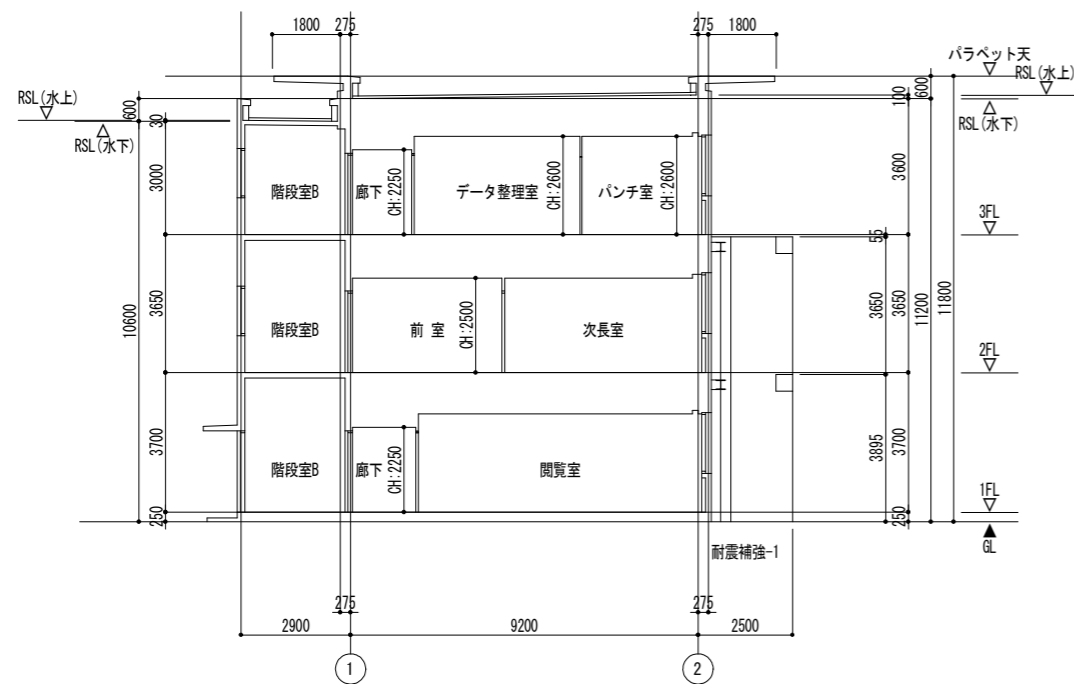


工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 西・北側立面図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-11
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

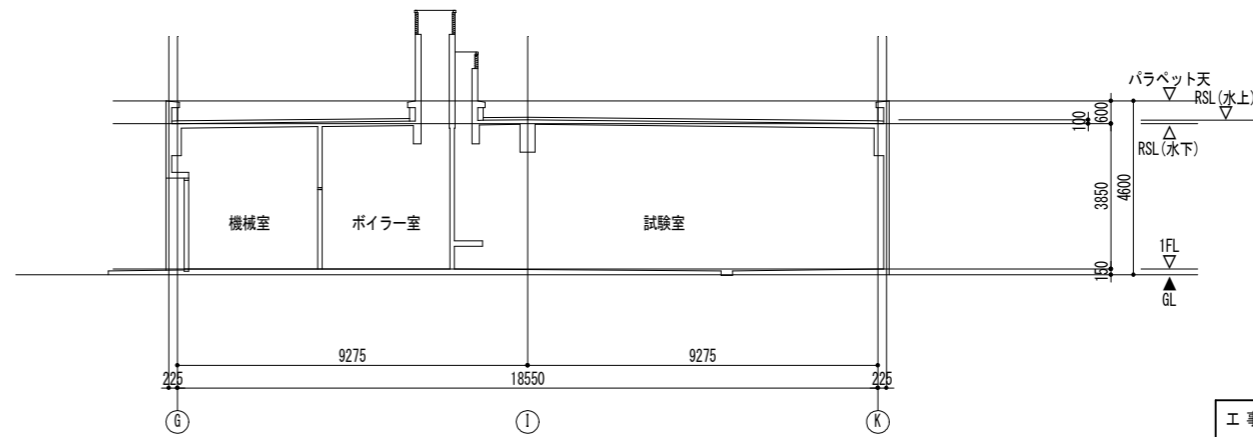
※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。



事務所棟断面図(1)



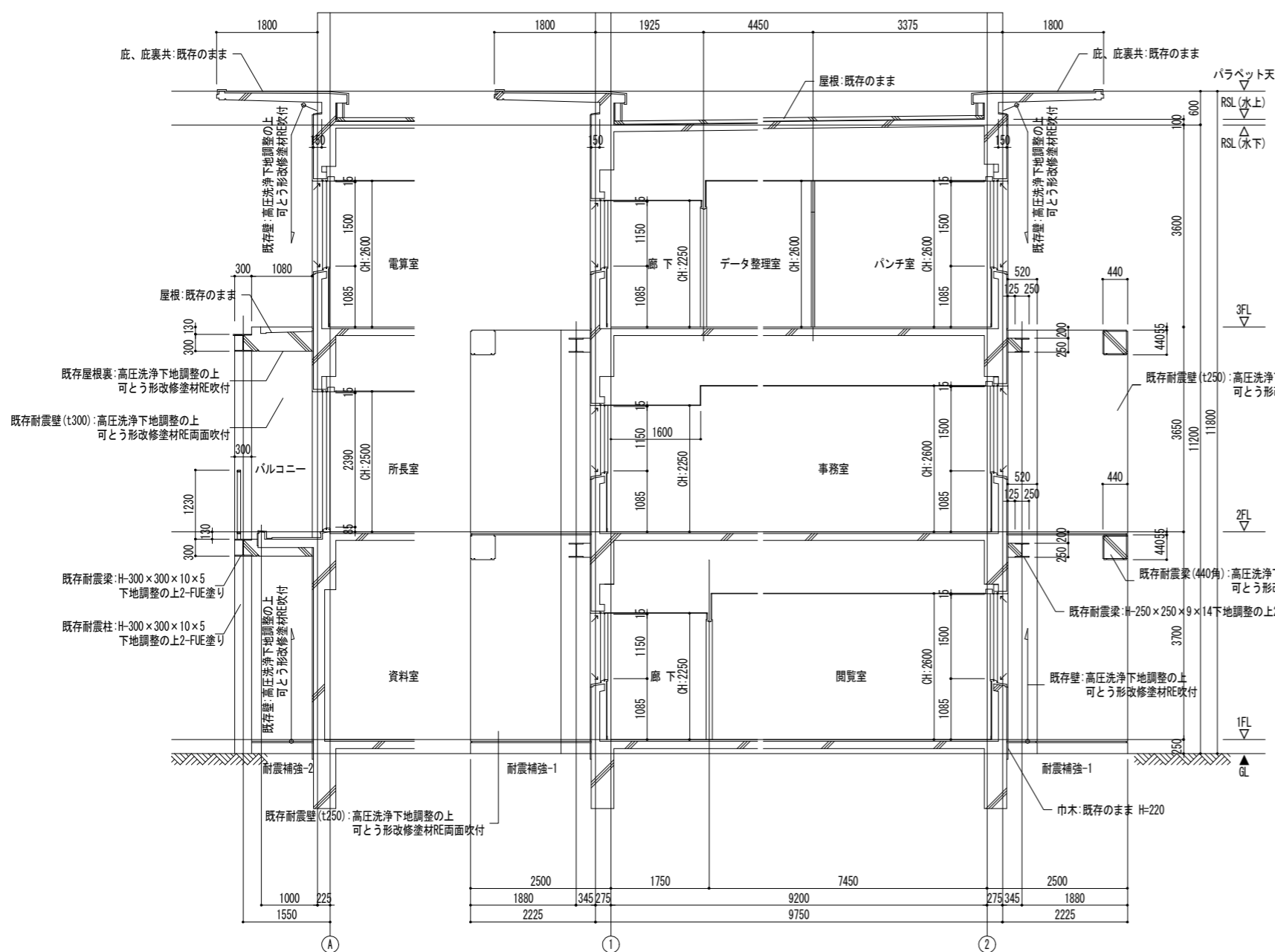
事務所棟断面図(2)



試験室棟断面図

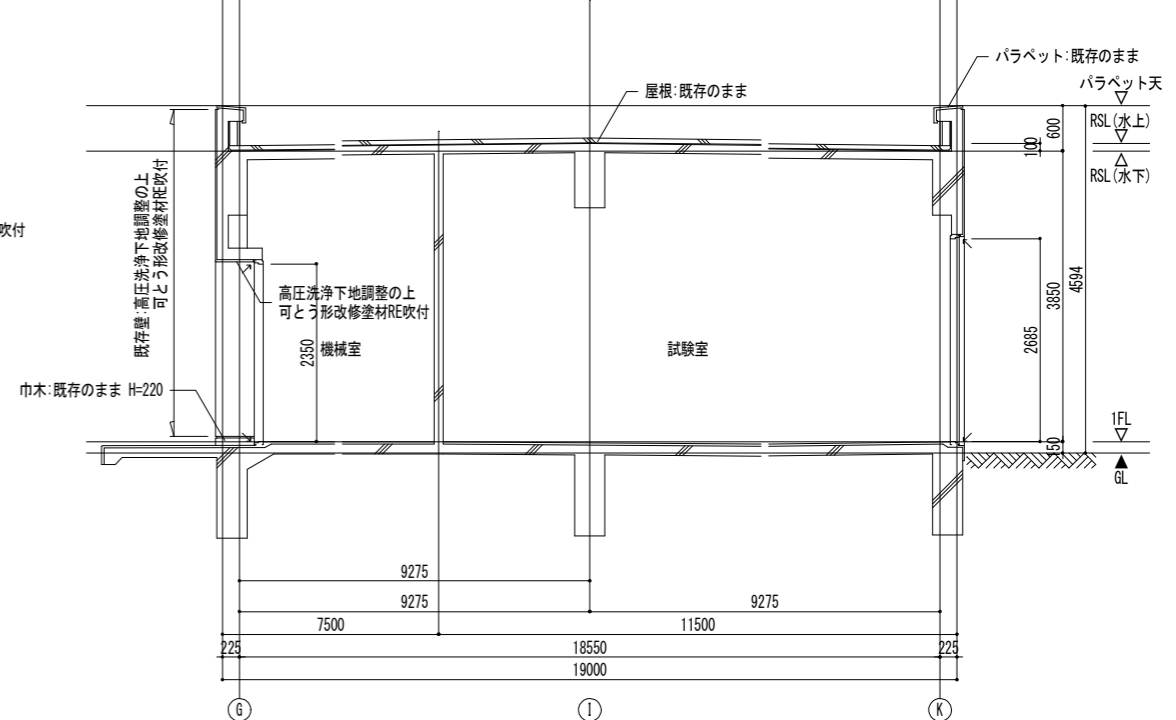
※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 断面図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-12
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



事務所棟断面詳細図

← 建具廻りコーキング打替え部を示す



試験室棟断面詳細図

← 建具廻りコーキング打替え部を示す

※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 断面詳細図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/50 A3:1/100	図面番号	A-13
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

改修建具表

※本工事の施工範囲は、事務所棟の戸、窓のみである。

記号	名称	1 SD	2 SD	3 SD	6 SD
	嵌め殺し欄間両袖付き両開き戸		嵌め殺し硝子戸 ※()内数字は、SD-2'を示す	嵌め殺し硝子戸	両開きフラッシュ戸
取付場所	数量	玄関ホール	1	玄関ホール	1
仕上見込硝子		既存仕上:OP塗り	75 (扉部:350)	既存仕上:OP塗り	75
付属金物			既存ガラス:FLt5のまま	既存ガラス:FLt5のまま	
備考		建具周囲コーキング打替え		建具周囲コーキング打替え	
記号	名称	7 SD	10 SD	11 SD	14 SD
	両開きフラッシュ戸	袖嵌め殺し窓付き両開きフラッシュ戸	ランマ付き片開き中板フラッシュ戸	片開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸
取付場所	数量	3F階段室B	1	試験室	1
仕上見込硝子		既存仕上:OP塗り	100	既存仕上:OP塗り	120
付属金物			既存ガラス:Fwt6.8のまま	既存ガラス:FLt5のまま	
備考		既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、 建具周囲コーキング打替え	既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、 建具周囲コーキング打替え	既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、 建具周囲コーキング打替え	既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、 建具周囲コーキング打替え
記号	名称	20 SD	1 AW	2 AW	3 AW
	両開きフラッシュ戸	2連引違ガラス窓	2連引違ガラス窓	引違ガラス窓	引違ガラス窓
取付場所	数量	LPG庫	1	1~3階南面各室	18
仕上見込硝子		既存仕上:OP塗り	100	既存仕上:アルマイト処理	70
付属金物			既存ガラス:FLt5のまま	既存ガラス:FLt5のまま	
備考		既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、 建具両脇コーキング打替え	建具周囲コーキング打替え	建具周囲コーキング打替え	建具周囲コーキング打替え
記号	名称	5 AW	6 AW	7 AW	9 AW
	片袖嵌め殺し窓付き引違ガラス窓	引違ガラス窓	引違ガラス窓	縦軸回転窓	欄間ガラリ付き縦軸回転窓
取付場所	数量	整理室	1	試験室	1
仕上見込硝子		既存仕上:アルマイト処理	70	既存仕上:アルマイト処理	70
付属金物		既存ガラス:FLt5のまま	既存ガラス:FLt5のまま	既存ガラス:FLt5のまま	
備考		建具周囲コーキング打替え	建具周囲コーキング打替え	建具周囲コーキング打替え	建具周囲コーキング打替え

- F 型板ガラス
- FL フロートガラス
- FW 網入り型板ガラス
- PW 網入り磨き板ガラス
- AL アルミパネル t4

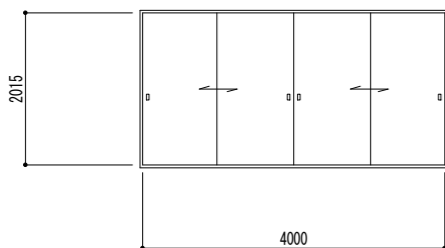
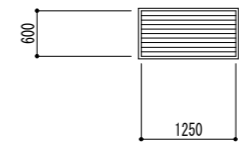
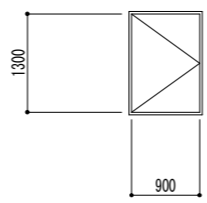
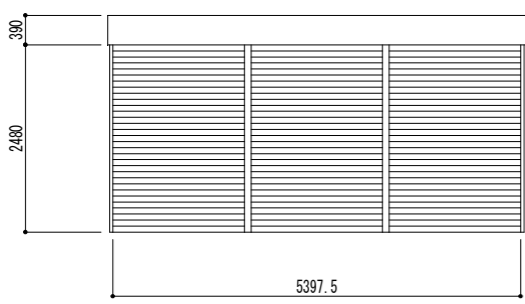
- 1 SD - 2-FUE塗り替え及び周囲コーキング打替え建具を示す
- 1 AW - 周囲コーキング打替え建具を示す

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事
図面名	庁舎外壁改修 建具表 (1)
年月日	令和 5年 9月
尺度	A1:1/50 A3:1/100
図面番号	A-14
会社名	
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所

改修建具表

※本工事の施工範囲は、事務所棟の戸、窓のみである。

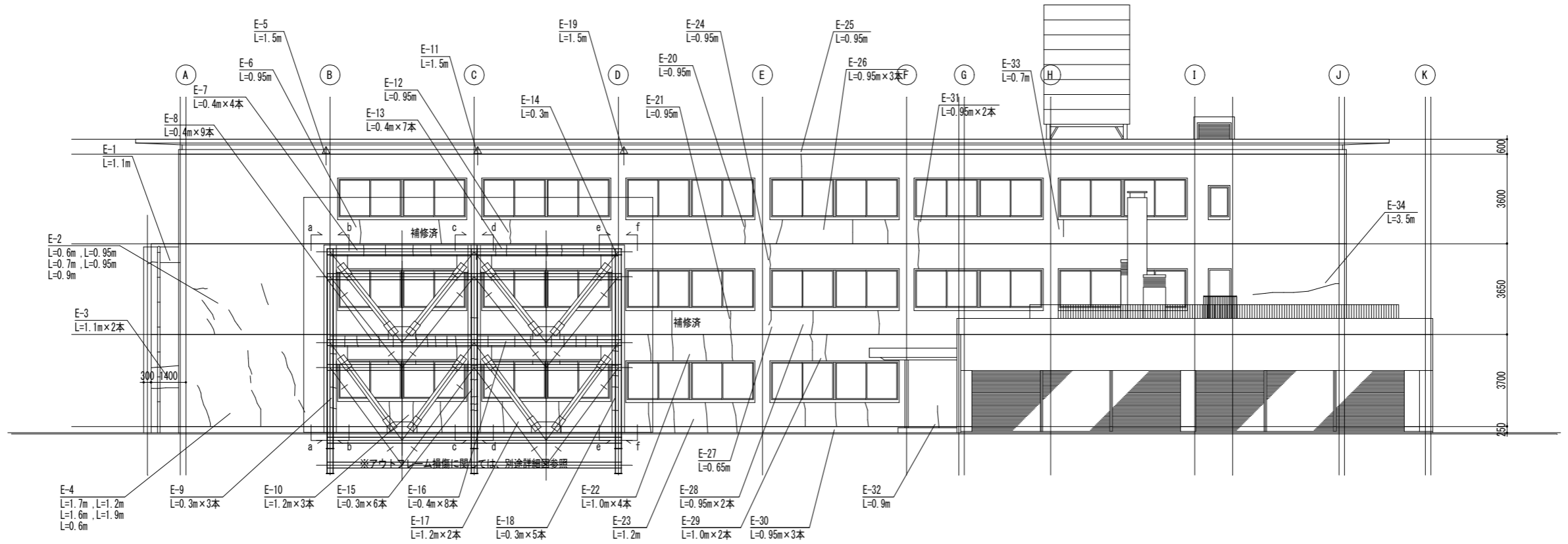
記号	名称	1 SS	3連軽量シャッター	100 SD	片面フラッシュ戸	2 SG	鋼製固定ガラリ
取付場所	数量	車庫	2	屋上高架水槽基礎	1	屋上パイプ取出口・排気筒	1
仕上見込	硝子	既存仕上:焼き付け塗装		既存仕上:OP塗り	100	既存仕上:OP塗り	100
付属金物							
備考		既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、ガイドレール廻りコーキング打替え(内外共)		既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、建具周囲コーキング打替え		既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、建具周囲コーキング打替え	
記号	名称	8 LD	4枚引違フラッシュ戸				
取付場所	数量	倉庫	1				
仕上見込	硝子	既存仕上:OP塗り	110				
付属金物							
備考		既存仕上下地調整の上2-FUE塗り替え、建具周囲コーキング打替え					
記号	名称						
取付場所	数量						
仕上見込	硝子						
付属金物							
備考							
記号	名称						
取付場所	数量						
仕上見込	硝子						
付属金物							
備考							



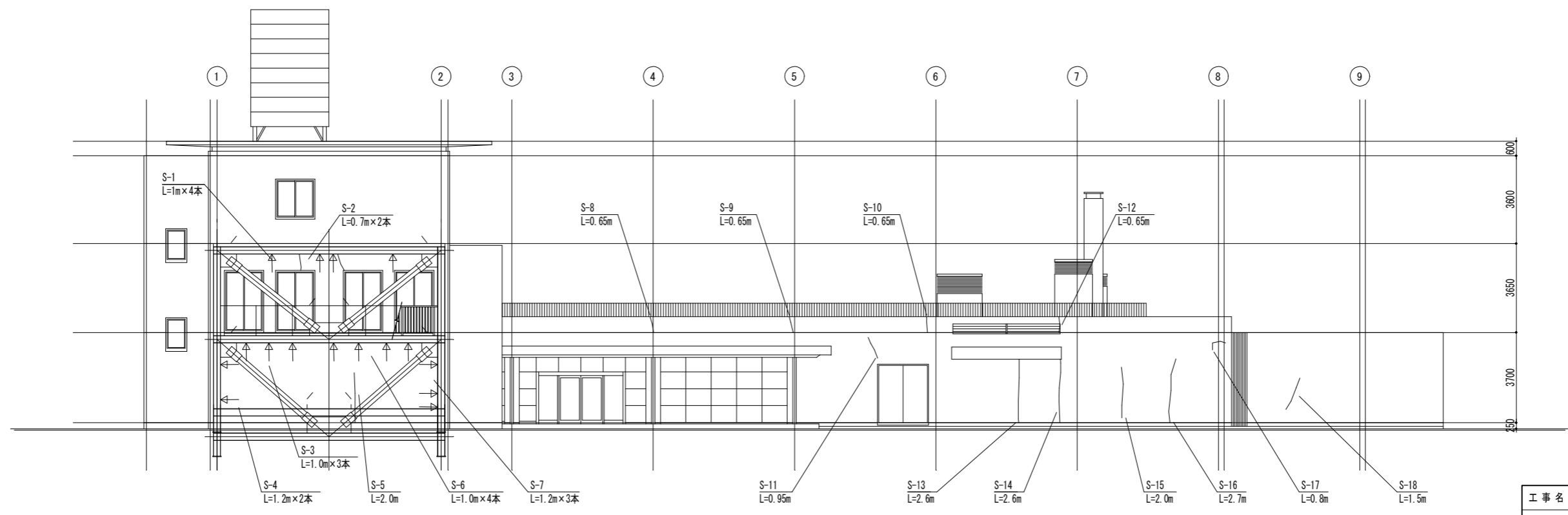
F	型板ガラス
FL	フロートガラス
FW	網入り型板ガラス
PW	網入り磨き板ガラス
AL	アルミパネル t4

- 2-FUE塗り替え及び周囲コーキング打替え建具を示す
 - 周囲コーキング打替え建具を示す

工事名	令和5年度 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事
図面名	庁舎外壁改修 建具表 (2)
年月日	令和 5年 9月
尺度	A1:1/50 A3:1/100
図面番号	A-15
会社名	
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所



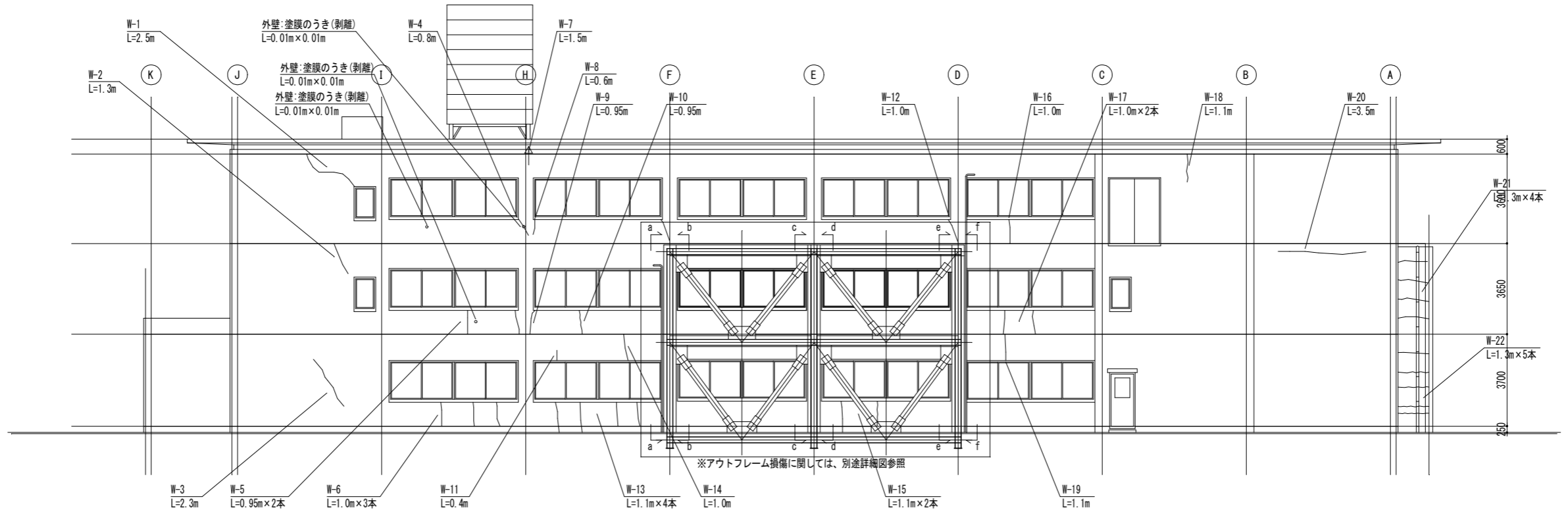
東側立面図
←: スラブクラック位置を示す



南側立面図
←: スラブクラック位置を示す

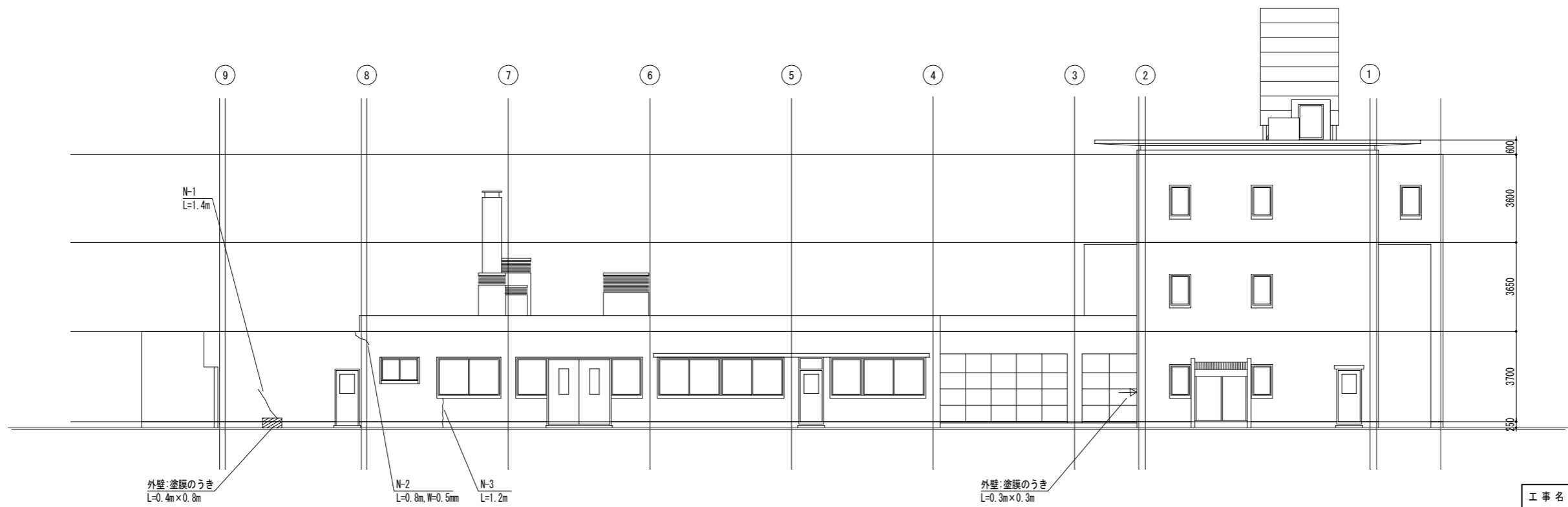
※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 損傷図 (1)		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-16
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



西側立面図

←: スラブ下クラック位置を示す



北側立面図

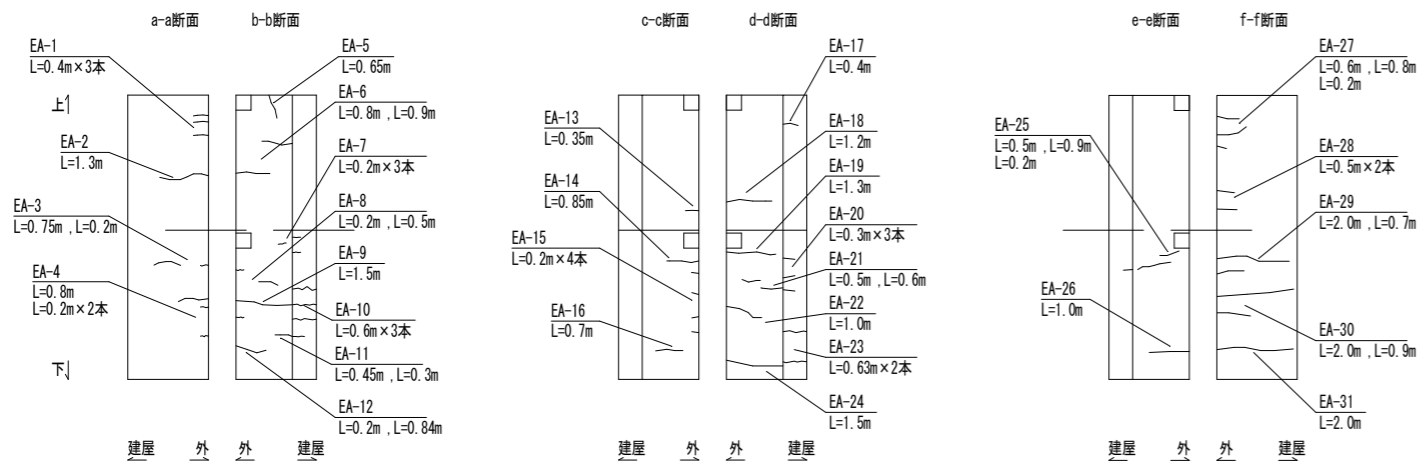
←: スラブ下クラック位置を示す

※本工事の施工範囲は、事務所棟のみである。

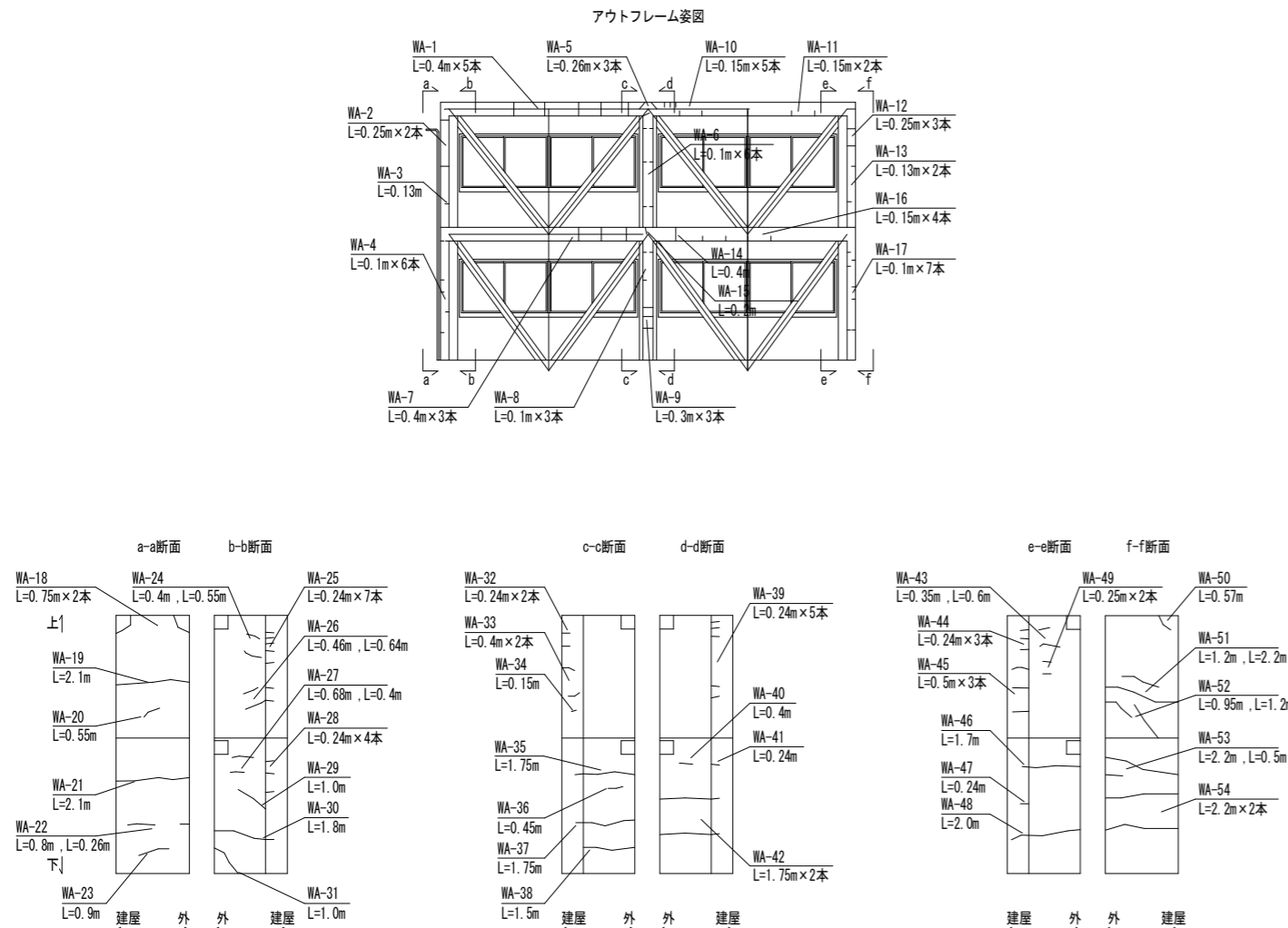
工事名	令和5年度 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	庁舎外壁改修 損傷図 (2)		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	A1:1/100 A3:1/200	図面番号	A-17
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

損傷図-3

東側外壁 アウトフレーム壁部詳細



西側外壁 アウトフレーム壁部詳細



部位別ひびわれ集計表

東側外壁面					
記号	W(幅) mm	L(長さ) m	箇所	延長(L×箇所) m	改修工法
E-1	0.20	1.10	1	1.10	エポキシ樹脂注入工法
E-1	0.20	0.60	1	0.60	エポキシ樹脂注入工法
E-1	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-2	0.20	0.70	1	0.70	エポキシ樹脂注入工法
E-2	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-2	0.20	0.90	1	0.90	エポキシ樹脂注入工法
E-3	0.20	1.10	2	2.20	エポキシ樹脂注入工法
E-3	0.20	1.70	1	1.70	エポキシ樹脂注入工法
E-3	0.20	1.20	1	1.20	エポキシ樹脂注入工法
E-4	0.20	1.60	1	1.60	エポキシ樹脂注入工法
E-4	0.20	1.90	1	1.90	エポキシ樹脂注入工法
E-4	0.20	0.60	1	0.60	エポキシ樹脂注入工法
E-5	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
E-6	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-7	0.20	0.40	4	1.60	エポキシ樹脂注入工法
E-8	0.20	0.40	9	3.60	エポキシ樹脂注入工法
E-9	0.20	0.30	3	0.90	エポキシ樹脂注入工法
E-10	0.20	1.20	3	3.60	エポキシ樹脂注入工法
E-11	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
E-12	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-13	0.20	0.40	7	2.80	エポキシ樹脂注入工法
E-14	0.20	0.30	1	0.30	エポキシ樹脂注入工法
E-15	0.20	0.30	6	1.80	エポキシ樹脂注入工法
E-16	0.20	0.40	8	3.20	エポキシ樹脂注入工法
E-17	0.20	1.20	2	2.40	エポキシ樹脂注入工法
E-18	0.20	0.30	5	1.50	エポキシ樹脂注入工法
E-19	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
E-20	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-21	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-22	0.20	1.00	4	4.00	エポキシ樹脂注入工法
E-23	0.20	1.20	1	1.20	エポキシ樹脂注入工法
E-24	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-25	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
E-26	0.20	0.95	3	2.85	エポキシ樹脂注入工法
E-27	0.20	0.65	1	0.65	エポキシ樹脂注入工法
E-28	0.20	0.95	2	1.90	エポキシ樹脂注入工法
E-29	0.20	1.00	2	2.00	エポキシ樹脂注入工法
E-30	0.20	0.95	3	2.85	エポキシ樹脂注入工法
E-31	0.20	0.95	2	1.90	エポキシ樹脂注入工法
E-32	0.20	0.90	1	0.90	エポキシ樹脂注入工法
E-33	0.20	0.70	1	0.70	エポキシ樹脂注入工法
E-34	0.20	3.50	1	3.50	エポキシ樹脂注入工法
EA-1	0.20	0.40	3	1.20	エポキシ樹脂注入工法
EA-2	0.20	1.30	1	1.30	エポキシ樹脂注入工法
EA-3	0.20	0.75	1	0.75	エポキシ樹脂注入工法
EA-4	0.20	0.80	1	0.80	エポキシ樹脂注入工法
EA-4	0.20	0.20	2	0.40	エポキシ樹脂注入工法
EA-5	0.20	0.65	1	0.65	エポキシ樹脂注入工法
EA-6	0.20	0.80	1	0.80	エポキシ樹脂注入工法
EA-7	0.20	0.90	1	0.90	エポキシ樹脂注入工法
EA-7	0.20	0.20	3	0.60	エポキシ樹脂注入工法
EA-8	0.20	0.20	1	0.20	エポキシ樹脂注入工法
EA-8	0.20	0.50	1	0.50	エポキシ樹脂注入工法
EA-9	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
EA-10	0.20	0.60	3	1.80	エポキシ樹脂注入工法
EA-11	0.20	0.45	1	0.45	エポキシ樹脂注入工法
EA-11	0.20	0.30	1	0.30	エポキシ樹脂注入工法
EA-12	0.20	0.20	1	0.20	エポキシ樹脂注入工法
EA-12	0.20	0.84	1	0.84	エポキシ樹脂注入工法
EA-13	0.20	0.35	1	0.35	エポキシ樹脂注入工法
EA-14	0.20	0.85	1	0.85	エポキシ樹脂注入工法
EA-15	0.20	0.20	4	0.80	エポキシ樹脂注入工法
EA-16	0.20	0.70	1	0.70	エポキシ樹脂注入工法
EA-17	0.20	0.40	1	0.40	エポキシ樹脂注入工法
EA-18	0.20	1.20	1	1.20	エポキシ樹脂注入工法
EA-19	0.20	1.30	1	1.30	エポキシ樹脂注入工法
EA-20	0.20	0.30	3	0.90	エポキシ樹脂注入工法
EA-21	0.20	0.50	1	0.50	エポキシ樹脂注入工法
EA-21	0.20	0.60	1	0.60	エポキシ樹脂注入工法
EA-22	0.20	1.00	1	1.00	エポキシ樹脂注入工法
EA-23	0.20	0.63	2	1.26	エポキシ樹脂注入工法
EA-24	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
EA-24	0.20	0.50	1	0.50	エポキシ樹脂注入工法
EA-25	0.20	0.90	1	0.90	エポキシ樹脂注入工法
EA-26	0.20	0.20	1	0.20	エポキシ樹脂注入工法
EA-28	0.20	0.50	2	1.00	エポキシ樹脂注入工法
EA-29	0.20	2.00	1	2.00	エポキシ樹脂注入工法
EA-29	0.20	0.70	1	0.70	エポキシ樹脂注入工法
EA-30	0.20	2.00	1	2.00	エポキシ樹脂注入工法
EA-30	0.20	0.90	1	0.90	エポキシ樹脂注入工法
EA-31	0.20	2.00	1	2.00	エポキシ樹脂注入工法
東側外壁面クラック合計				106.30(m)	

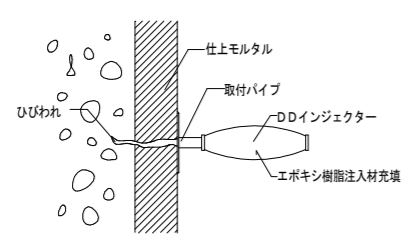
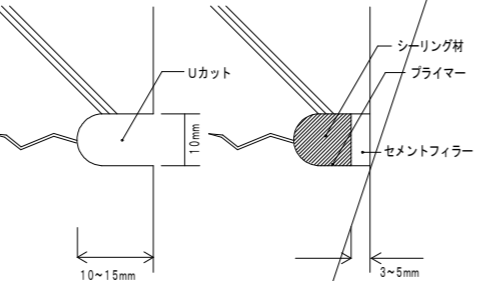
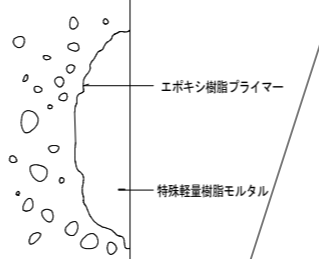
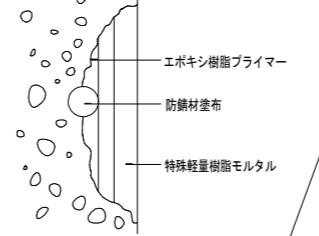
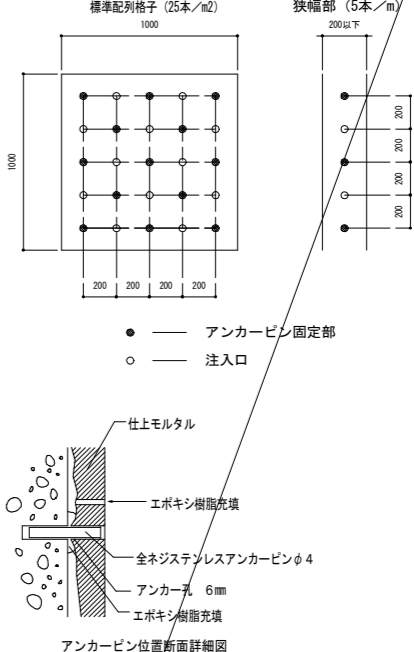
西側外壁面					
記号	W(幅) mm	L(長さ) m	箇所	延長(L×箇所) m	改修工法
W-1	0.20	2.50	1	2.50	エポキシ樹脂注入工法
W-2	0.20	1.30	1	1.30	エポキシ樹脂注入工法
W-3	0.20	2.30	1	2.30	エポキシ樹脂注入工法
W-4	0.20	0.80	1	0.80	エポキシ樹脂注入工法
W-5	0.20	0.95	2	1.90	エポキシ樹脂注入工法
W-6	0.20	1.00	3	3.00	エポキシ樹脂注入工法
W-7	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
W-8	0.20	0.60	1	0.60	エポキシ樹脂注入工法
W-9	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
W-10	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
W-11	0.20	0.40	1	0.40	エポキシ樹脂注入工法
W-12	0.20	1.00	1	1.00	エポキシ樹脂注入工法
W-13	0.20	1.10	4	4.40	エポキシ樹脂注入工法
W-14	0.20	1.00	1	1.00	エポキシ樹脂注入工法
W-15	0.20	1.10	2	2.20	エポキシ樹脂注入工法
W-16	0.20	1.00	1	1.00	エポキシ樹脂注入工法
W-17	0.20	1.00	2	2.00	エポキシ樹脂注入工法
W-18	0.20	1.10	1	1.10	エポキシ樹脂注入工法
W-19	0.20	1.10	1	1.10	エポキシ樹脂注入工法
W-20	0.20	3.50	1	3.50	エポキシ樹脂注入工法
W-21	0.20	1.30	4	5.20	エポキシ樹脂注入工法
W-22	0.20	1.30	5	6.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-1	0.20	0.40	5	2.00	エポキシ樹脂注入工法
WA-2	0.20	0.25	2	0.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-3	0.20	0.13	1	0.13	エポキシ樹脂注入工法
WA-4	0.20	0.10	6	0.60	エポキシ樹脂注入工法
WA-5	0.20	0.26	3	0.78	エポキシ樹脂注入工法
WA-6	0.20	0.10	6	0.60	エポキシ樹脂注入工法
WA-7	0.20	0.40	3	1.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-8	0.20	0.10	3	0.30	エポキシ樹脂注入工法
WA-9	0.20	0.30	3	0.90	エポキシ樹脂注入工法
WA-10	0.20	0.15	5	0.75	エポキシ樹脂注入工法
WA-11	0.20	0.15	2	0.30	エポキシ樹脂注入工法
WA-12	0.20	0.25	3	0.75	エポキシ樹脂注入工法
WA-13	0.20	0.13	2	0.26	エポキシ樹脂注入工法
WA-14	0.20	0.40	1	0.40	エポキシ樹脂注入工法
WA-15	0.20	0.20	1	0.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-16	0.20	0.15	4	0.60	エポキシ樹脂注入工法
WA-17	0.20	0.10	7	0.70	エポキシ樹脂注入工法
WA-18	0.20	0.75	2	1.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-19	0.20	2.10	1	2.10	エポキシ樹脂注入工法
WA-20	0.20	0.55	1	0.55	エポキシ樹脂注入工法
WA-21	0.20	2.10	1	2.10	エポキシ樹脂注入工法
WA-22	0.20	0.80	1	0.80	エポキシ樹脂注入工法
WA-22	0.20	0.26	1	0.26	エポキシ樹脂注入工法
WA-23	0.20	0.90	1	0.90	エポキシ樹脂注入工法
WA-24	0.20	0.40	1	0.40	エポキシ樹脂注入工法
WA-24	0.20	0.55	1	0.55	エポキシ樹脂注入工法
WA-25	0.20	0.24	7	1.68	エポキシ樹脂注入工法
WA-26	0.20	0.46	1	0.46	エポキシ樹脂注入工法
WA-26	0.20	0.64	1	0.64	エポキシ樹脂注入工法
WA-27	0.20	0.68	1	0.68	エポキシ樹脂注入工法
WA-28	0.20	0.40	1	0.40	エポキシ樹脂注入工法
WA-28	0.20	0.24	4	0.96	エポキシ樹脂注入工法
WA-29	0.20	1.00	1	1.00	エポキシ樹脂注入工法
WA-30	0.20	1.80	1	1.80	エポキシ樹脂注入工法
WA-31	0.20	1.00	1	1.00	エポキシ樹脂注入工法
WA-32	0.20	0.24	2	0.48	エポキシ樹脂注入工法
WA-33	0.20	0.40	2	0.80	エポキシ樹脂注入工法
WA-34	0.20	0.15	1	0.15	エポキシ樹脂注入工法
WA-35	0.20	1.75	1	1.75	エポキシ樹脂注入工法
WA-36	0.20	0.45	1	0.45	エポキシ樹脂注入工法
WA-37	0.20	1.75	1	1.75	エポキシ樹脂注入工法
WA-38	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-39	0.20	0.24	5	1.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-40	0.20	0.40	1	0.40	エポキシ樹脂注入工法
WA-41	0.20	0.24	1	0.24	エポキシ樹脂注入工法
WA-42	0.20	1.75	2	3.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-43	0.20	0.35	1	0.35	エポキシ樹脂注入工法
WA-43	0.20	0.60	1	0.60	エポキシ樹脂注入工法
WA-44	0.20	0.24	3	0.72	エポキシ樹脂注入工法
WA-45	0.20	0.50	3	1.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-46	0.20	1.70	1	1.70	エポキシ樹脂注入工法
WA-47	0.20	0.24	1	0.24	エポキシ樹脂注入工法
WA-48	0.20	2.00	1	2.00	エポキシ樹脂注入工法
WA-49	0.20	0.25	2	0.50	エポキシ樹脂注入工法
WA-50	0.20	0.57	1	0.57	エポキシ樹脂注入工法
WA-51	0.20	1.20	1	1.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-51	0.20	2.20	1	2.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-52	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
WA-53	0.20	1.20	1	1.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-53	0.20	2.20	1	2.20	エポキシ樹脂注入工法
WA-54	0.20	2.20	2	4.40	エポキシ樹脂注入工法
西側外壁面クラック合計				107.00(m)	

南側外壁面					
記号	W(幅) mm	L(長さ) m	箇所	延長(L×箇所) m	改修工法
S-1	0.20	1.00	4	4.00	エポキシ樹脂注入工法
S-2	0.20	0.70	2	1.40	エポキシ樹脂注入工法
S-3	0.20	1.00	3	3.00	エポキシ樹脂注入工法
S-4	0.20	1.20	2	2.40	エポキシ樹脂注入工法
S-5	0.20	2.00	1	2.00	エポキシ樹脂注入工法
S-6	0.20	1.00	4	4.00	エポキシ樹脂注入工法
S-7	0.20	1.20	3	3.60	エポキシ樹脂注入工法
S-8	0.20	0.65	1	0.65	エポキシ樹脂注入工法
S-9	0.20	0.65	1	0.65	エポキシ樹脂注入工法
S-10	0.20	0.65	1	0.65	エポキシ樹脂注入工法
S-11	0.20	0.95	1	0.95	エポキシ樹脂注入工法
S-12	0.20	0.65	1	0.65	エポキシ樹脂注入工法
S-13	0.20	2.60	1	2.60	エポキシ樹脂注入工法
S-14	0.20	2.60	1	2.60	エポキシ樹脂注入工法
S-15	0.20	2.00	1	2.00	エポキシ樹脂注入工法
S-16	0.20	2.70	1	2.70	エポキシ樹脂注入工法
S-17	0.20	0.80	1	0.80	エポキシ樹脂注入工法
S-18	0.20	1.50	1	1.50	エポキシ樹脂注入工法
南側外壁面クラック合計				36.15(m)	

北側外壁面					
記号	W(幅) mm	L(長さ) m	箇所	延長(L×箇所) m	改修工法
N-1	0.20	1.40	1	1.40	エポキシ樹脂注入工法
N-2	0.50	0.80	1	0.80	エポキシ樹脂注入工法
N-3	0.20	1.20	1	1.20	エポキシ樹脂注入工法
北側外壁面クラック合計				3.40(m)	

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所 庁舎外壁塗装工事
図面名	庁舎外壁改修 損傷図(3)
年月日	令和 5年 9月
尺度	A1:1/100 A3:1/200
図面番号	A-18
会社名	近畿農政局 土地改良技術事務所

コンクリート（モルタル塗）壁改修要領図

<p>ひび割れ補修 エポキシ樹脂注入工法（0.2mm～1.0mm以下）</p>	<p>ひび割れ補修 Uカットシーリング材充填工法（1.0mm超える）</p>	<p>欠損補修 軽量エポキシ樹脂モルタル充填工法</p>	<p>露筋補修 軽量エポキシ樹脂モルタル充填工法</p>	<p>浮き補修 アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p>
 <p>自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</p> <p>表面処理 ひび割れに沿って5cm程度の幅で、ワイヤーブラシ等を用いて、レタンスやほこりを除去する。</p> <p>取付パイプの接着 取付パイプをひび割れの中心位置にエポキシ樹脂シール材にて取り付ける。</p> <p>シール工 ひび割れをエポキシ樹脂シール材にて、シールを行なう。</p> <p>低圧注入器具にて注入材充填 低圧注入器具にてエポキシ樹脂を注入する。</p> <p>注入パイプ及びシール材の撤去 硬化養生後、注入パイプ及び表面のシール材をタガネ、ワイヤーブラシ、ディスクサンダー等で除去する。</p>	 <p>Uカットシーリング材充填工法</p> <p>Uカット ひび割れに沿って、幅10mm、深さ10～15mm程度のU字型の溝を設ける。</p> <p>溝内の清掃 Uカット溝内部の切粉等をワイヤーブラシ、刷毛等で除去し、清掃する。</p> <p>プライマー塗布 プライマーを溝内部に塗り残しのないように均一に塗布する。</p> <p>充填 溝内へシール材をコーキングガンで、空隙や打残し等のないよう加圧しながら充填し、表面を平滑に仕上げる。シーリング材はコンクリート表面から3～5mm程度低めに充てんする。</p> <p>仕上げ シーリング材硬化後、セメントフィラーを用いて壁面と均一なる様にヘラ、刷毛等を用いて仕上げる。</p> <p>養生 シール材が硬化するまでは損傷、汚染等のないようにする。また、雨等からも養生する。</p> <p>清掃 シール部以外の汚れ等を除去し、清掃する。</p>	 <p>軽量エポキシ樹脂モルタル充填工法</p> <p>表面処理 ほこりは、ワイヤーブラシ等を用いて除去を行う。</p> <p>プライマー塗布 エポキシ樹脂系プライマーをコンクリート面に塗布する。</p> <p>打設工 プライマー塗布後、直ちに特殊軽量樹脂モルタルを所定の面まで充填する。</p> <p>仕上げ 充填後、表面を金ゴテにて仕上げる。</p>	 <p>軽量エポキシ樹脂モルタル充填工法</p> <p>表面処理 錆・ほこりは、ワイヤーブラシ等を用いて除去を行う。</p> <p>防錆材塗布 鉄筋に防錆材を塗布する。</p> <p>プライマー塗布 エポキシ樹脂系プライマーを鉄筋及びコンクリート面に塗布する。</p> <p>打設工 プライマー塗布後、直ちに特殊軽量樹脂モルタルを所定の面まで充填する。</p> <p>仕上げ 充填後、表面を金ゴテにて仕上げる。</p>	 <p>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>標準配列格子（25本/m²） 1000 200 200 200 200</p> <p>狭幅部（5本/m） 200以下 200 200 200</p> <p>● — アンカーピン固定部 ○ — 注入口</p> <p>アンカーピン位置断面詳細図</p> <p>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>アンカーピン部削孔 直径6mmのコンクリートドリルを用い、躯体コンクリート30mmの深さに達するまで行なう。さっ孔後、十分孔内を清掃する。</p> <p>アンカーピン固定部 グリースガンを用いて、エポキシ樹脂を最深部より徐々に充填する。</p> <p>アンカーピンの挿入 直径4mmのステンレス製（SUS304）全ネジアンカーピンを挿入する。</p> <p>残存浮部の削孔 コンクリートドリルを用いてさっ孔を行う。</p> <p>残存浮部の注入 グリースガンを用いて、注入材を徐々に未注入部が残らないよう注入する。</p> <p>養生 注入材の硬化養生を行う。</p>
<p>軽微なひび割れ（0.2mm未満）</p>				
<p>シール工法にて補修を行なう</p>				

工事名	令和5年度 土地改良技術 土地改良技術事務所庁舎外壁塗装工事		
図面名	壁改修要領図		
年月日	令和 5年 9月		
尺度	-	図面番号	A-19
会社名			
事務所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		